

2026

SYLLABUS

[シラバス]

1

高校1年生

CONTENTS

※本冊子中の「TW」は「Topwin」を表します。

学習の流れ

- | | | | |
|----|-----------|----|----------|
| 02 | 6年間の学習の流れ | 04 | 年間スケジュール |
|----|-----------|----|----------|

科目別シラバス

- | | | | | | |
|----|-----------------|----|---------------|----|-----------|
| 08 | 英語科カリキュラム | 16 | 数学科カリキュラム | 32 | 国語科カリキュラム |
| 10 | 英語TW/T α | 18 | 数学TW α | 34 | 国語TW |
| 12 | 英語TW/T β | 20 | 数学TW β | 36 | 国語T |
| 14 | 英語SK | 22 | 数学T α | 38 | 国語SK |
| | | 24 | 数学T β | | |
| | | 26 | 数学SK α | | |
| | | 28 | 数学SK β | | |
| | | 30 | 数学SK γ | | |

- 40 受講にあたってのご案内

早稲田アカデミー大学受験部

学習の流れ

- ・ 6年間の学習の流れ
- ・ 年間スケジュール

【6年間の学習の流れ】

(導入:初習 演習:問題演習を交えながら再度学習 入試実戦:過去問演習) ★…一通りの学習が終わるタ

| 科目 | クラス | 中1 | | | 中2 | | | 中3 | | | 高1 | |
|-----|---------------------------------------|---------------------------------|---|---|------------------------------------|---|------|--------------------------------|---------------|--------|------------------|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 |
| 英語 | TWB→TW・T | All English4技能総合 (英検®準2級レベル) | | | All English4技能総合 (英検®2級～準1級レベル) | | | 高校英文法・4技能導入 (英検®2級～準1級レベル) | | | ★ 高校文法・4技能演習 | |
| | TW→TW・T | 中学文法導入 (英検®3級～準2級レベル) | | | 中学文法発展演習 (英検®準2級～2級レベル) | | | | | | | |
| | S→SK <small>※高3のみ Rを開講</small> | 中学文法導入 (英検®4級～3級レベル) | | | 中学文法演習 (英検®3級～準2級レベル) | | | 高校基礎文法・4技能導入 (英検®準2級～2級レベル) | | | 高校文法・4技能導入 | |
| 数学 | TWBα→TW | 中学内容導入 | | | IA導入 | | II導入 | | | IIIC導入 | | |
| | TWBβ→TW | | | | | | BC導入 | | ★ | IAB演習 | IIIABC演習 | |
| | TWα | 中学内容導入 | | | IA導入 | | II導入 | | | IIIC導入 | | |
| | TWβ <small>※高3のみ γを開講</small> | | | | | | BC導入 | | ★ | | IIIABC演習 | |
| | Sα | 中学内容導入 | | | 中学内容演習 | | IA導入 | II導入 | | SKγへ | | |
| | Sβ | | | | | | | | | | | |
| | Tα | | | | | | | | | IA導入 | II導入 | |
| | Tβ | | | | | | | | | | IIBC導入 | |
| | SKα | | | | | | | | | IA導入 | II導入 | |
| | SKβ | | | | | | | | | | | |
| | SKγ | | | | | | | | | | IIBC導入 | |
| | Rα | | | | | | | | | | | |
| | Rβ | | | | | | | | | | | |
| 国語 | TW | 国語教養導入(古文文法・漢文句法導入) | | | | | ★ | | 現代思想導入・古文漢文演習 | | 読解演習(現古漢) | |
| | T | | | | | | | | | | 古文文法・漢文句法導入 | |
| | SK <small>※高3のみ Rを開講</small> | | | | | | | | | | 大学入試国語導入(古典文法導入) | |
| 物理 | TW | | | | | | | | | | | |
| | SK | | | | | | | | | | | |
| 化学 | TW | | | | | | | | | | | |
| | SK | | | | | | | | | | | |
| 生物 | TW | | | | | | | | | | | |
| 世界史 | TW | | | | | | | | | | | |
| | SK | | | | | | | | | | | |
| 日本史 | TW | | | | | | | | | | | |
| | SK | | | | | | | | | | | |
| 地理 | TW | | | | | | | | | | | |

| | | | | 高2 | | | 高3 | | |
|-------------------|-----------|------------|--------|-------------|--------------|--------------|-----------------|--------------|------------|
| 3 | | | | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| | | | | 入試実戦 | | | | | |
| ★ 高校文法・4技能演習 | | | | | | | 入試実戦 | | |
| ★ III C演習 | | | | | | | III C入試実戦 | | |
| | | | | III ABC入試実戦 | | | III ABC入試実戦 | | |
| ★ III C演習 | | | | | | | III C入試実戦 | | |
| | | | | III ABC入試実戦 | | | III ABC入試実戦 | | |
| | | | | | | | | | |
| ★ III 導入 | | | | ★ III 演習 | C 導入 | ★ III C 入試実戦 | | | |
| ★ III ABC 演習 | | | | | | | III ABC 入試実戦 | | |
| II BC 導入 | | | | ★ III C 導入 | | | III C 演習 | III C 入試実戦 | |
| | | | | | | | III ABC 入試実戦 | | |
| ★ III ABC 演習 | | | | | | | →TW/T/SKいずれかのβへ | | |
| | | | | | | | III C 導入 | ★ | III C 入試実戦 |
| | | | | | | | III ABC 演習 | III ABC 入試実戦 | |
| | | | | 入試実戦 | | | | | |
| ★ 読解演習(古漢) | 読解演習(現古漢) | | | | | | 入試実戦(TWへ合流) | | |
| ★ 読解演習(現古漢) | | | | | | | 入試実戦 | | |
| 力学導入 | | 熱力学導入/波動導入 | 電磁気学導入 | ★ | 全分野演習 | | 入試実戦 | | |
| 力学導入 | | 熱力学導入/波動導入 | 電気導入 | ★ | 全分野導入・演習 | | 入試実戦 | | |
| 理論化学導入 | | 無機化学導入 | 有機化学導入 | ★ | 全分野演習 | | 入試実戦 | | |
| 理論化学導入 | | 無機化学導入 | 有機化学導入 | ★ | 全分野導入・演習 | | 入試実戦 | | |
| 生物基礎導入 | | 生物導入 | | ★ | 全分野演習 | | 入試実戦 | | |
| 導入(全時代) | | | | ★ | 導入(全時代) | | ★ | 演習 | |
| 導入(原始～江戸時代=前近代まで) | | | | | 導入(全時代・テーマ史) | | ★ | 演習 | |
| 導入(全範囲) | | | | ★ | 導入(全範囲) | | ★ | 演習 | |

年間スケジュール(高1~高3) ★…クラス選抜試験

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 |
|-----------|-----------|-----------|---------------|--|-----------------------|--|
| 高1 | | 無料春期講習会 | | オリエンテーション 保護者会① 定期試験対策 | 必修テスト① 個別面談① | 定期試験対策 ★ 東大への英語・数学・国語 夏期講習会 オリエンテーション TW/Tクラス選抜試験(後期) |
| 高2 | | オリエンテーション | 春期講習会 | 保護者会① オリエンテーション | 必修テスト① 個別面談① | ★ 東大水準模試① 夏期講習会 オリエンテーション 東大必勝ジュニア① |
| 高3 | オリエンテーション | 春期講習会 | 必勝コース選抜試験(前期) | 必勝コース開講 保護者会① 個別面談① オリエンテーション | 必修テスト① 必修テスト(マーク)② | ★ 東大必勝模試① 夏期講習会 オリエンテーション 早慶難関大必勝模試 夏期集中特訓 |

※イベントの時期や名称は変更になる場合があります。

| 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|------------------------------|-----------------|--------------------------------|--------------------|---------------------------|------------------|
| 必修テスト② | 定期試験対策 保護者会② オリエンテーション | 個別面談② 必修テスト③ | 定期試験対策 TW/Tクラス選抜試験(前期) ★ | 冬期講習会 オリエンテーション | 個別面談③ 新年度説明会 東大への数学 | 必修テスト④ 定期試験対策 |

| 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|---------------------------------|------------------------------|------------------------------------|------|-----------------|--------|
| 必修テスト② | 東大必勝ジュニア② 保護者会② オリエンテーション | 個別面談② 必修テスト③ 早慶大必勝ジュニア | 東大水準模試② ★ 冬期講習会 オリエンテーション | 正月特訓 | 個別面談③ 新年度説明会 | 必修テスト④ |

| 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------------------------|---------|--|-------|--------------------------------|--|--------|
| 必修テスト③ 必勝コース選抜試験(後期) | 東大必勝模試② | 必修テスト④ 必修テスト(マーク)⑤ 個別面談② オリエンテーション 保護者会② | 個別面談③ | 東大必勝冬期特訓 冬期講習会 オリエンテーション | 私立大学入試 東大必勝テストゼミ 直前特講 大学入学共通テスト | 国立大学入試 |

科目別シラバス

- ・ 英語
- ・ 数学
- ・ 国語

英語科カリキュラム

中学1年～高校3年

英語科指導方針

TW・Tクラス 授業の進め方

● 感覚的理解を論理的理解へ

英文法の体系学習をこの1年間で終了します。学年に応じて洗練されてきた知性のなかでこれまでの学習で体得した点在的知識を論理的有機的に結び付け、感覚的理解を知識の側面から洗い直し、論理的理解に昇華します。授業のなかでは日本語を活用し、英文和訳の手法も取り入れていきます。これにより、日本語での和訳・要約、日本語からの英訳といった日英両語の理解を前提とする日本の大学受験の入試問題にも対応できる実戦力を身につけます。入試問題演習に本格的に突入する高校2年生に上がる前に、必要な知識事項、思考体系を全て体得して高1を終えることがこの講座の目標です。

● 伸ばしていく英語力

授業を α と β に分け、それぞれで扱う領域を明確化しています。両クラスとも高校英文法の復習を織り交ぜながら、英語運用能力の基盤として α では語彙、 β では高校英文法それぞれの力を鍛えます。また、英語運用の実践として、 α では読解を、 β では作文を取り扱います。長文読解では入試問題という括りにとらわれず、社会論、文化論といった論説文から、エッセイ、随筆まで多種多様な文章に触れ、英文を読む楽しさに触れてもらいます。作文の学習では、典型表現の体得により、自身の表現の幅を広げながらも、和英変換にひと工夫を必要とするような内容の表現法を学んでいきます。これまで学んできた英文法と英語運用を結び付けていく訓練を1年間継続し、高2以降の本格的な入試演習に備え、運用基盤を固めます。

● 音声学習について

オンライン英会話「Online English Education (OEE)」の受講を推奨します。各英文法単元ごとの重要口頭表現を学び、その後各種英語民間試験のスピーキング領域の対策として口頭でのプレゼンテーション、意見陳述、場面描写を学ぶカリキュラム構成となっています。

SKクラス 授業の進め方

● 文法基盤構築から実戦運用へ

SKクラスでは、1年間で高校英文法全範囲の学習をひと通り終えます。中学学習の振り返りを随所に挟みながら、高校英文法の体系学習を進めます。高校英文法の基盤を盤石なものにしつつ、加えて英文和訳の演習も取り入れます。これにより、和訳、日本語からの英訳といった日英両語の理解を前提とする日本の大学受験の入試問題にも対応できる実戦力を身につけます。

● 伸ばしていく英語力

中学英文法の復習を織り交ぜながら、英語運用能力の基盤として語彙、高校英文法それぞれの力を鍛えます。また、英語運用の実践として、英文構成、英作文を取り扱います。加えて、英文構造解析による英文の精読も勉強していきます。

● 音声学習について

オンライン英会話「Online English Education (OEE)」の受講を推奨します。各英文法単元ごとの重要口頭表現を学び、その後各種英語民間試験のスピーキング領域の対策として口頭でのプレゼンテーション、意見陳述、場面描写を学ぶカリキュラム構成となっています。

【6年間の流れ】

| | TW Booster | TW・S |
|----|--|--|
| 中1 | オールイングリッシュの授業で、中学文法を一通り使える形にし、1年間で英検®準2級レベル(およそ2000語程度)の語彙力を身につけます。また、授業でリスニングやスピーキングの力を鍛え、さらには毎週のライティング課題を課し、英語運用を日常化します。読書は1年間で総計45～60万語に触れます。 | 中学英文法の2/3を一通り使える形にし、1年間で英検®3級レベル(1200語程度)の語彙力を身につけます。確かな理解はもちろんのこと、文字と音声を介した反復訓練によって、英語運用の基盤を整えることを目標とします。 |
| 中2 | 中1に引き続き、オールイングリッシュの授業でより高度な英語運用能力を身につけます。TED Talksでのプレゼンターのスピーチの中身を聴きとれるように、英検®2級はもちろんのこと、準1級にも相当する力をつけていきます。読書量は中1からの2年間で120～160万語に届きます。 | 中1に引き続き、中学英文法の総仕上げをします。夏休めで中学文法の学習を一通り終えた後秋以降は2周目の学習に突入し、特に文構造に影響を与える文法内容にフォーカスします。 |
| | TW | S |
| 中3 | 高校文法の体系学習に入り、より高度な英文表現を学びます。2年間で培った英語の「身体的感覚的理解」による英文の構造、規則(=英文法)の知識を日本語によって言語化していきます。これまで読み、書き、聴いて話してきた英文を、文法という媒体を経て有機的に結びつけていきます。 | 高校文法の体系学習に入り、より高度な英文表現を学びます。2年間で整えた英語の基盤をもとに、いよいよ本格的な英語の運用を学んでいきます。 |
| | TW・T | SK |
| 高1 | 語彙や語法といった知識の学習、高校文法の体系学習を1年間で終えます。合わせて、これまで培ってきた基礎語学を基に、高度な英文の読解と作文による発信を本格的に学んでいきます。 | 高校文法の体系学習に突入し、中学までの内容を凌駕する高度な表現を学んでいきます。無味乾燥な暗記のみに頼らない、本質的な勉強を進めていきます。 |
| 高2 | 東大をはじめとした最難関大学の合格水準に届く英語力をつけます。英作文はもちろん、東大固有の設問形式に纏わる記述答案作成力をつけるべく、実際の入試問題の演習を多く積みます。秋の東大模試で合格点に届く力をつけていきます。 | 語彙や文法といった知識の基盤をかため、本格的に読解や作文といった演習に力を入れ、解答能力の向上を目指します。大学入学共通テストレベルの英語問題にも対応できる力をつけていきます。 |
| 高3 | 各クラスが目標とする最難関大学の入試問題を演習形式で対策していきます。合格点に到達することは無難なこと、英語の得点で他科目を補うアドバンテージを生み出せるまで力をつけていきます。TWクラスでは記述答案作成力を更に洗練すべく、添削指導を実施いたします。 | |

※英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。このコンテンツは、公益財団法人 日本英語検定協会の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。

【ノート】

授業に参加するにあたり、以下の2つのノートをご用意ください。

① 授業内講義演習ノート

テキストへの解答の書き込みは授業内外を問わず禁止です。講師の板書のみならず、口頭で説明した内容も含め、学んだことを貪欲に書き込んでください。鉛筆やシャープペンシルに加え、赤と青のペンをご用意ください。

② 宿題演習ノート

宿題の演習は別冊でノートを作成していただき、授業内で回収、チェックを担当講師が行います。答え合わせをするのは勿論、間違えた問題の解き直しもこのノートに必ず行いましょう。単語などの書き取りの練習もこのノートに行ってください。

【音声教材】

英語の音声学習用の教材には以下のものがあります。

① オンライン英会話「Online English Education (OEE)」

月3回のオンライン英会話です。「早稲田アカデミーOnline」からOEEのユーザートップページにアクセス可能です。

② WordTree3000／英単語・熟語用音源 (Sigma Player 2)

スマートフォン、タブレットに対応した音声学習用アプリケーションです。文英堂のHP (<https://www.bun-eido.co.jp>) よりインストール可能です。

【宿題の量】

学年・クラスにより多少は変動しますが、概ね以下のような分量の課題を出します。

① 通常期：授業の復習 (平均2時間) ・各種テスト準備 (平均1時間) / 週×通常授業30回≒90時間程度

② 長期休暇期間：春休み、GW、夏休み、冬休みで合計60時間程度

①+②で年間150時間程度の課題を出します。また、①②において「間違い箇所が多い場合」は、必然的に「やり直しにかかる時間」が増えます。

高3で添削が授業時に行われる場合は、添削が返却されてから書き直しを実施してください。「見て、読んで、おしまい」にすることなく、必ず手を動かすようにしてください。

【テスト(高1)】

| | | |
|----------------|--|---|
| TW/Tクラス選抜 | 7月、12月に実施します。TW/Tクラスの受講にはこの試験に合格することが必要です。合格者は科目ごとに得点によって選出されますので、単科での受験も可能です。目標点の目安は60点です。またこの試験を当日3科目受験し、優秀な成績を収めた方は「待生」の資格が得られます。高校受験者・新入生対象には3月、4月にも実施します。 | |
| | 実施月 | 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 |
| 必修テスト | 記述型全国模試を6月、9月、11月、2月の年4回受験します。単元学習を離れた実力テストで普段の学習がどの程度定着しているかを判断することができます。 | |
| | 実施月 | 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 |
| 月例テスト | 所定月の1回目授業において実施する、前月内容のまとめテストです。このテストで基準点を超過し続けられているかが、英語力の伸びを測る一つの目安になります。 | |
| | 実施月 | 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 |
| 単語テスト(TW/α,SK) | 語彙力(英単語)を測定するテストです。TW・αは英→和、和→英の形式で合計25問、SKは英→和の形式で25問、各月の2回目と3回目の授業で実施します。英語力の基盤の勉強ですので、毎日時間を取りましょう。90点以上が合格点です。 | |
| 熟語テスト(TW/Tβのみ) | 語彙力(英熟語)を測定するテストです。英文中選択空所補充の形式で25問、各月の2回目と3回目の授業で実施します。重要度は英単語と変わりません。90点以上が合格点です。 | |
| 文法確認テスト(SKのみ) | 文法事項、英文表現の定着を測定するテストです。各月の2回目と3回目の授業で実施します。翌授業までに複数日、演習する時間を確保しましょう。80点以上が合格点です。 | |

高1英語TW/Tα (読解)

選抜

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

対象

東大・国公立大医学部などの最難関大学を目指す生徒。

※受講にはTW/Tαクラス選抜試験への合格が必要です

講座の目的

文構造や文法事項を理解したうえで一文を正確に和訳する精読力と、文同士・段落同士のつながり(論理関係)を理解する長文読解力を相乗的に高めるのが本講座のねらいです。

精読演習では、文構造を捉える際に障壁となる項目や日本語への訳出が難しい単元を学習します。また長文講義では、設問形式別に解法を考えることで、英文間・段落間の論理関係の捉え方を教授します。

学年の終了時に、塾内模試である必修テストで偏差値70、英検[®]2級から準1級、TOEICで700点程度の到達を目指します。

【教材】

■ 高校新演習プログレス英語長文I (3月~1月)、高1英語TW/Tα長文(2月)

本講座の長文のメインテキストです。様々な文体、話題の文章を扱っており、抽象度の高い文章も登場します。文章の論理展開や構造を正確に読み解く訓練を積み、英文読解の素地をこの1年間で完成させます。

■ 高1英語TW/Tα精読

本講座の短文精読のメインテキストです。複雑な構造が駆使された抽象度の高い英文を日本語に翻訳し、英語の構造把握力と文脈予測力を高めるためのテキストです。

使用法

予習:長文は週1題、精読はあらかじめ講師による指定のあった英文に取り組んでください。長文では、なるべく短時間で一度読み通し(この段階で不明な語句は読み飛ばします)、二度目に比較的ゆっくりと読みながら(この段階で辞書を参照しても構いません)、付随する設問の答案を用意してください。長文を読み通す際はその都度日本語に置き換えるのではなく、前後の関係を読みながら、文意を推測することを心掛けてください。精読では、英文の構造を解析し、語義の曖昧な語句を辞書(英英辞典を推奨)で調べたのち、文脈を踏まえた自然な日本語文に訳出してください。最初から日本語に置き換えようとすると、かえって訳文は不自然となります。まずは、英語のまま理解することに努め、その理解を日本語に移し替えることを心掛けてください。

授業:精読は予習の指定をした英文の解説のほかに、別の英文についても授業中に演習し、その場で解説を行います。長文は不明点の解説を中心に進めます。

復習:受講して初めて知った情報や、逆に不明点として浮上した論点について、辞書や文法書などを使って理解を深め、整理します。それでも理解できないものは、担当講師やアシストスタッフに質問してください。新出の語いをノートにまとめるなどの工夫をしてもよいでしょう。また、ノートをしっかり読み直し、下記宿題に記載している通り、問題演習をしっかりと反復してください。ただ問題を解き、答え合わせをしたところで効果はありません。必ず以下の注意を守って復習してください。

- ①1日で全ての宿題を終えるのではなく、何日かに分けて実施する
- ②英語も日本語も丁寧に書く
- ③解けない問題が出てきても、必要以上に立ち止まらない
- ④演習中や答え合わせ中に発生した「疑問」は、講師やアシストスタッフに質問し解決する

■ WordTree3000英単語・熟語

TW・T・SKクラス共通の指定英単語帳です。単語と例文の音声を収録したアプリが付属した単語集で、対義語や派生語の知識、基本的な動詞・前置詞が含まれる熟語も取り扱います。メインテキストの復習と同様に、翌授業の直前に慌てて詰め込むといった事態にならないように、可能な限り頻度を高めて反復出来るよう努めてください。単語を覚える際は単に眺めるだけの学習にならないよう、発音する、書き取るなど、講師の指示に従ってインプットの工夫をしましょう。なお、月例テストでは前月の単語テスト範囲から語い問題を10題程度出題します。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① WordTree3000英単語・熟語の指定範囲英単語の練習 (1日20分/毎日)

毎週100語指定された範囲の英単語を覚えます。翌週に「英→日」と「日→英」を組み合わせた確認テストを25題出題します。90点合格で、不合格の場合は追課題もしくは翌授業後の追試を指示します。

② メインテキストの指定範囲の演習 (1日15分/2日に1回)

その週の復習として、指定範囲の解き直しを宿題ノートにします。演習後は巻末解答を見ながら丸付けをし、間違えた問題を解きなおしてください。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|---------------------------|--------------------|--------------------|----------------------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 諸伝達 5分 | 単語テスト 5分 | 答え合わせ 5分 | 「概説」講義 15分 |
| 「精読演習」演習と解説 45分 | | | |
| 「長文演習」解説 15分 | | | |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 英文構造解析 | 長文読解テーマ | 単語テスト |
|-----|---|-----------------------|-----------------------------|------------------|
| 3月 | ① | 名詞要素 | 第1講 文化(1): サーミ族 | — |
| | ② | 形容詞要素 | 第2講 文化(2): 教育哲学 | 724-800 |
| | ③ | 副詞要素 | 第3講 文化(3): 目と口の印象 | 801-900 |
| 春期 | ① | 文の要素と品詞(英語の要素) | — | — |
| | ② | SV・SVC(英語の機能) | — | — |
| | ③ | SVO・SVOO・SVOIC(英語の配分) | — | — |
| | ④ | 長文読解演習(英語の論理) | — | — |
| 4月 | ① | that節の判別① | 第4講 文化(4): レディーファースト | 724-900 |
| | ② | that節の判別② | 第5講 文化(5): 運動会 | 901-1000 |
| | ③ | that節の判別③ | 第6講 文化(6): STEAM教育 | 1001-1100 |
| 5月 | ① | as節の判別① | 第7講 文化(7): 弁当 | 月例テスト |
| | ② | as節の判別② | 第8講 文化(8): 言語と性格 | 1101-1200 |
| | ③ | as節の判別③ | 第9講 文化(9): 大人とは | 1201-1300 |
| 6月 | ① | V-ingの判別 | 第10講 日常生活(1): エシカルファッション | 月例テスト |
| | ② | V-p.p.の判別 | 第11講 日常生活(2): 親切にすること | 1301-1400 |
| | ③ | wh-節の判別 | 第12講 日常生活(3): ペットと飼い主の健康 | 1401-1500 |
| 7月 | ① | 並列 | 第13講 日常生活(4): 呼吸 | 月例テスト |
| | ② | 因果関係に関わる表現 | 第14講 実用文(1): フリアアプリ | 1501-1600 |
| | ③ | 論理展開のパターン | 第15講 実用文(2): 音楽祭についての相談 | 1601-1682 |
| 夏期 | ① | — | 国公立大型入試英語長文演習 | — |
| | ② | — | 国公立大型入試英語長文演習 | — |
| | ③ | — | 国公立大型入試英語長文演習 | — |
| 9月 | ① | 助動詞の過去形 | 第16講 物語(1): 兄弟のきずな | 1-1682 |
| | ② | 仮定法構文 | 第17講 物語(2): 読書のある人生 | 724-800 |
| | ③ | 代名詞 | 第18講 自然・科学技術(1): 共生 | 801-900 |
| 10月 | ① | 関係詞① | 第19講 自然・科学技術(2): 寿命 | 月例テスト |
| | ② | 関係詞② | 第20講 自然・科学技術(3): 気象病 | 901-1000 |
| | ③ | 関係詞③ | 第21講 自然・科学技術(4): ドローンが変える未来 | 1001-1100 |
| 11月 | ① | 比較表現① | 第22講 自然・科学技術(5): 減少する生物 | 月例テスト |
| | ② | 比較表現② | 第23講 自然・科学技術(6): 遠隔医療 | 1101-1200 |
| | ③ | 比較表現③ | 第24講 自然・科学技術(7): サリー・ライド | 1201-1300 |
| 12月 | ① | 省略 | 第25講 経済・産業(1): デジタルノマド | 月例テスト |
| | ② | 倒置 | 第26講 経済・産業(2): 情報セキュリティ | 1301-1400 |
| | ③ | 挿入 | 第27講 社会(1): 多様性 | 1401-1500 |
| 冬期 | ① | — | 国公立大型入試英語長文演習 | — |
| | ② | — | 国公立大型入試英語長文演習 | — |
| | ③ | — | 国公立大型入試英語長文演習 | — |
| | ④ | — | 国公立大型入試英語長文演習 | — |
| 1月 | ① | 無生物主語構文 | 第28講 社会(2): 電気・電子機器廃棄物 | 724-1500 |
| | ② | 名詞構文 | 第29講 社会(3): 選択的夫婦別姓 | 1501-1600 |
| | ③ | 否定表現 | 第30講 社会(4): 相対的貧困 | 1601-1682 |
| 2月 | ① | — | 要旨要約作成演習 | 月例テスト |
| | ② | — | 要旨要約作成演習 | 1049-1367(総まとめ①) |
| | ③ | — | 要旨要約作成演習 | 1368-1682(総まとめ②) |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

❖ 英語科カリキュラム

高1英語TW/Tβ (文法・記述)

選抜

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分

対象

東大・国公立大医学部などの最難関大学を目指す生徒。
※受講にはTW/Tβクラス選抜試験への合格が必要です

講座の目的

高度な英語運用力の土台となる文法の全領域を1年間で習得し、英語によって物事を分析・説明して自らの理解を正確に執筆する英作文力の定着を目的とします。

カリキュラムはいたずらに学習項目を細分化して「文法のための文法学習」に陥ることがないように、<構造>という新たな思考の枠組みを設定し、①<動詞構造>②<句・節構造>③<比較構造>④<変則構造>というわずら4つの視点から、シンプルに、しかしどこまでも深く、英文法の全貌を描き出します。

学習内容も、重箱の隅をつつくような細かい知識の習得ではなく、単元の要点を体系的に理解し、その運用を英作文などで正確に行う訓練を重視します。このような分厚い基盤を高1で完成させたいうえで、高2ではより高度な知識の学習と多様な問題形式にあたることで応用力の上積みをつくります。それをもとに高3では実戦的な入試演習に着手し、余裕をもって最難関大に合格できる力を養成する。これが高校3年間の流れです。

学年終了時には、塾内模試である必修テストで偏差値70に到達することを目指します。記号選択の問題であれば、早稲田、慶應義塾のような最難関私立大の入試問題であっても十分に通用する実力を身につけます。

【教材】 ※講習会は別テキストです。

■ 高1英語TW/Tβ (前期・後期)

「Grammar」・「Translation」・「Vocabulary」の3パートからなります。まず、文法単元の要点を講義で学んだうえで「Grammar」を演習して定着を図ります。次に、それを踏まえて「Translation」で入試に出題された1～2行程度の和文英訳に挑戦し、文法知識や構文知識を盛り込んだ自然な英語を作成できる訓練を行います。

最後に、残った時間で「Vocabulary」のセクションで語いの拡張を図ります。いたずらに難しい単語を覚えるのではなく、接頭辞や接尾辞の持つニュアンスを理解して様々な単語をツリー構造で体系化して把握する手法を用い、従来の単語テストや熟語テストとは違ったアプローチで語い力の増強を図り、英作文での表現力養成や長文読解の精度向上につなげていきます。

使用法

予習:原則として予習は不要です。

授業:授業冒頭で例文や例題を用いながら講師が各単元の導入を行い、その後、授業内で確認と定着のための演習を重ねます。

復習:やり残した問題を講師の指示に従って演習し、不明点を残さずに翌週の授業に進んでください。

また、ノートをしっかり読み直し、下記宿題に記載している通り、問題演習をしっかりと反復してください。ただ問題を解き、答え合わせをしたところで効果はありません。必ず以下の注意を守って復習にあってください。

- ①1日で全ての宿題を終えるのではなく、何日かに分けて実施する
- ②英語も日本語も丁寧に書く
- ③解けない問題が出てきても、必要以上に立ち止まらない
- ④演習中や答え合わせ中に発生した「疑問」は、講師やアシスタスタフに質問し解決する

■ 英熟語ターゲット1000

大学受験のみならず、実用的な英語の運用にも必要かつ十分な1000の熟語表現を、コンピュータ解析にもとづいて抽出し編纂した英熟語帳の決定版。最新の改訂によって、一層効率よく自然な英語表現を学べる工夫が凝らされています。見出し語とその意味のみならず、それが実際に使用されている例文、および、見出し語との同義語・反意語もあわせて必ず学習し、掲載された情報を余すことなく理解してください。なお、月例テストでは前月の熟語テスト範囲から語い問題を10題程度出題します。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① 英熟語ターゲット1000の指定範囲英熟語の練習 (1日15分/毎日)

毎週50個指定された範囲の英熟語を覚えます(12月②から範囲が広がります)。翌週に「英文中選択空所補充形式」の確認テストを25題出題します。90点合格で、不合格の場合は追課題もしくは授業後の追試を指示します。

② メインテキストの指定範囲の演習 (1日15分/2日に1回)

その週の復習として、指定範囲の解き直しを宿題ノートにします。演習後は巻末解答を見ながら丸付けをし、間違えた問題を解きなおしてください。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|--------------------|------------------|------------------|--------------------------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 熟語テスト 5分 | 諸伝達 5分 | 講義 30分 | 演習・解説 35分 |
| | | | Vocabulary 15分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 単元 | 学習事項 | 熟語テスト |
|-----|---|--------------------|------------------------|---------|
| 3月 | ① | 英語学習の準備① 目標・学習分野整理 | 英語の発音とアクセント・文の構成 | - |
| | ② | 英語学習の準備② 効率を高める工夫 | 英語のパーツ形成・動詞の拡張 | 1-50 |
| | ③ | 英語学習の準備③ 理解を深める工夫 | 文の拡張 | 51-100 |
| 春期 | ① | - | - | - |
| | ② | - | - | - |
| | ③ | - | - | - |
| | ④ | - | - | - |
| 4月 | ① | 基礎構造(単位・機能) | 語・句・節の構造、品詞機能の特定 | 1-100 |
| | ② | 動詞構造①(動詞型) | 五文型 | 101-150 |
| | ③ | 動詞構造②(態) | 受動態 | 151-200 |
| 5月 | ① | 動詞構造③(時間①) | 時制と時間 | 月例テスト |
| | ② | 動詞構造④(時間②) | 相と時間 | 201-250 |
| | ③ | 動詞構造⑤(非定形動詞①) | 不定詞 | 251-300 |
| 6月 | ① | 動詞構造⑥(非定形動詞②) | 不定詞 | 月例テスト |
| | ② | 動詞構造⑦(非定形動詞③) | 動名詞 | 301-350 |
| | ③ | 動詞構造⑧(非定形動詞④) | 分詞 | 351-400 |
| 7月 | ① | 動詞構造⑨(法①) | 助動詞 | 月例テスト |
| | ② | 動詞構造⑩(法②) | 助動詞 | 401-450 |
| | ③ | 動詞構造⑪(法③) | 仮定法 | 451-500 |
| 夏期 | ① | 動詞構造Review① | 五文型、受動態 | - |
| | ② | 動詞構造Review② | 時制、相、助動詞、仮定法 | - |
| | ③ | 動詞構造Review③ | 不定詞、動名詞、分詞 | - |
| 9月 | ① | 句・節構造①(前置詞) | 前置詞 | 1-500 |
| | ② | 句・節構造②(疑問詞) | 疑問詞、疑問文 | 501-550 |
| | ③ | 句・節構造③(関係詞①) | 関係詞概要、関係代名詞 | 551-600 |
| 10月 | ① | 句・節構造④(関係詞②) | 関係形容詞、関係副詞、複合関係詞 | 月例テスト |
| | ② | 句・節構造⑤(関係詞③) | (非)制限用法と連鎖、二重限定、並列限定 | 601-650 |
| | ③ | 句・節構造⑥(接続詞・句読法①) | 等位接続詞 | 651-700 |
| 11月 | ① | 句・節構造⑦(接続詞・句読法②) | 従位接続詞、句読法 | 月例テスト |
| | ② | 比較構造①(概要) | 同等比較(原級)、不等比較(比較級、最上級) | 701-750 |
| | ③ | 比較構造②(各論①) | theと比較表現 | 751-800 |
| 12月 | ① | 比較構造③(各論②) | 差異を示す程度表現、最上級相当表現 | 月例テスト |
| | ② | 変則構造①(倒置・分裂) | 倒置、強調構文 | 1-100 |
| | ③ | 変則構造②(省略・挿入) | 省略、挿入 | 101-200 |
| 冬期 | ① | 句・節構造Review① | 前置詞、接続詞 | - |
| | ② | 句・節構造Review② | 関係詞 | - |
| | ③ | 比較構造Review① | 比較基礎構造 | - |
| | ④ | 比較構造Review② | 比較定型表現 | - |
| 1月 | ① | 語法①(動詞①) | 自動詞他動詞、SVC、SVOA、SVOO | 501-800 |
| | ② | 語法②(動詞②) | SVOC、類語識別 | 201-300 |
| | ③ | 語法③(名詞①) | 名詞 | 301-400 |
| 2月 | ① | 語法④(名詞②) | 代名詞 | 月例テスト |
| | ② | 語法⑤(形容詞) | 分類、位置、類語識別、冠詞 | 401-500 |
| | ③ | 語法⑥(副詞) | 分類、位置、類語識別、否定 | 501-600 |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

高1英語SK(文法・精読)

対象

早慶上智大・国公立大などの難関大学を目指す生徒。

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

講座の目的

英語学習の土台となる文法事項を体系的に学習し、1年間で高校で扱う英文法を完全にマスターします。また、文法知識を実際の英文読解の中で活用できるよう、短めの記事を構造的に把握する訓練も並行して行います。

学年終了時における到達度の目安は、塾内模試である必修テストで70点(偏差値60程度)です。将来的に早慶上智大・国公立大に合格する基盤となる学力を構築していきます。

【教材】 ※講習会は別テキストです。

■ 高1英語SK(前期・後期)

文法・語法のメインテキストです。各回ごとのテーマが明確に決まっており、難度別に分けられた「PartA」「PartB」にその回で学習すべき問題が網羅されています。また、翌週同範囲の「確認テスト」を行います。

使用法

予習:原則として予習は不要です。

授業:各回の冒頭で当該単元の導入を行ってから、「PartA」の演習～解説に移ります。講師が行う板書は、ノートに写してください。

復習:「PartA」の解き直しが宿題になります。「PartB」の扱いは、授業担当がクラス状況を見て判断しますので、担当講師の指示に従ってください。翌週に実施される確認テストで合格点(80点)以上取れるようしっかりと復習しましょう。

■ WordTree3000英単語・熟語

TW・T・SKクラス共通の指定英単語帳です。単語と例文の音声収録したアプリが付属した単語集で、対義語や派生語の知識、基本的な動詞・前置詞が含まれる熟語も取り扱います。メインテキストの復習と同様に、翌授業の直前に慌てて詰め込むといった事態にならないように、可能な限り頻度を高めて反復出来るよう努めてください。単語を覚える際は単に眺めるだけの学習にならないよう、発音する、書き取るなど、講師の指示に従ってインプットの工夫をしましょう。なお、月例テストでは前月の単語テスト範囲から語問題を10題程度出題します。

■ 英文法重要事項集

英文法の勉強では絶対に避けて通ることが出来ない重要な例文、構文、慣用表現などを収録したハンドブックです。メインブックの演習時に隣においておき、必要な時に参照し、不明点を調べ解決することを習慣化しましょう。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① WordTree3000英単語・熟語の指定範囲英単語の練習(1日20分/毎日)

毎週100語指定された範囲の英単語を覚えます。翌週に「英一和」の確認テストを25題出題します。90点合格で、不合格の場合は追課題もしくは翌授業後の追試を指示します。

② メインテキストの指定範囲の演習(1日15分/2日に1回)

その週の復習として、テキスト内「練習問題」を宿題ノートにします。演習後は別冊の解答冊子を使用して丸付けをし、間違えた問題を解きなおしてください。翌授業で宿題ノートの回収と確認テストを実施します。80点合格で、不合格の場合は翌授業までの追課題を指示します。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | | | |
|--------------------|--------------------------|------------------------|----------------------|-------------------------|-------------------------|
| 0 | | 30 | | 60 | 90 |
| 単語テスト 5分 | 文法確認 テスト 5分 | 解説 諸伝達 5分 5分 | 導入【文法】 30分 | 演習・解説【文法】 20分 | 演習・解説【精読】 20分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 文法・作文・英文解釈学習事項 | 文法確認テスト | 単語テスト |
|-----|---|----------------|-------------|-----------------|
| 3月 | ① | 文の種類・品詞・句と節 | - | - |
| | ② | 基本文型 | 文の種類・品詞・句と節 | 1-100 |
| | ③ | 疑問文 | 基本文型 | 101-200 |
| 春期 | ① | 文型・英文解釈① | - | - |
| | ② | 文型・英文解釈② | - | - |
| | ③ | 文型・英文解釈③ | - | - |
| | ④ | 文型・英文解釈④ | - | - |
| 4月 | ① | 受動態 | - | 1-200 |
| | ② | 時制① | 受動態 | 201-300 |
| | ③ | 時制② | 時制① | 301-400 |
| 5月 | ① | 助動詞① | 月例テスト | |
| | ② | 助動詞② | 助動詞① | 401-500 |
| | ③ | 仮定法① | 助動詞② | 501-600 |
| 6月 | ① | 仮定法② | 月例テスト | |
| | ② | 不定詞① | 仮定法② | 601-700 |
| | ③ | 不定詞② | 不定詞① | 701-800 |
| 7月 | ① | 動名詞 | 月例テスト | |
| | ② | 分詞① | 動名詞 | 801-900 |
| | ③ | 分詞② | 分詞① | 901-1000 |
| 夏期α | ① | 長文読解演習① | - | - |
| | ② | 長文読解演習② | - | - |
| | ③ | 長文読解演習③ | - | - |
| 夏期β | ① | 助動詞 | - | - |
| | ② | 仮定法 | - | - |
| | ③ | 受動態 | - | - |
| 9月 | ① | 動詞の語法① | - | 1-1000 |
| | ② | 動詞の語法② | 動詞の語法① | 1001-1100 |
| | ③ | 接続詞① | 動詞の語法② | 1101-1200 |
| 10月 | ① | 接続詞② | 月例テスト | |
| | ② | 関係詞① | 接続詞② | 1201-1300 |
| | ③ | 関係詞② | 関係詞① | 1301-1400 |
| 11月 | ① | 関係詞③ | 月例テスト | |
| | ② | 名詞・冠詞 | 関係詞③ | 1401-1500 |
| | ③ | 代名詞 | 名詞・冠詞 | 1501-1600 |
| 12月 | ① | 形容詞・副詞 | 月例テスト | |
| | ② | 前置詞① | 形容詞・副詞 | 1601-1682 |
| | ③ | 前置詞② | 前置詞① | 1368-1400 |
| 冬期 | ① | 準動詞① | - | - |
| | ② | 準動詞② | - | - |
| | ③ | 関係詞① | - | - |
| | ④ | 関係詞② | - | - |
| 1月 | ① | 比較① | - | 1001-1400 |
| | ② | 比較② | 比較① | 1401-1500 |
| | ③ | 倒置 | 比較② | 1501-1600 |
| 2月 | ① | 否定・強調 | 月例テスト | |
| | ② | 英文解釈総合① | 否定・強調 | 1601-1682 |
| | ③ | 英文解釈総合② | 英文解釈総合① | 1368-1682(総まとめ) |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

数学科カリキュラム

中学1年～高校3年

数学科指導方針

TW・SKγ(中高一貫組) 授業の進め方

- 中学で仕上げた土台を基に発展的な演習へ
TWクラスでは既に中学3年生までに数学IIIBC(ベクトル)までの単元学習は終了しており、あとは理系の数学IIIを残すのみです。文理共通範囲の数学IIABCは3年間、数学IIIに関しては2年間じっくりと入試演習に割く時間を確保しています。高2の12月時点で、「東大の数学で合格点に到達する解答能力」を作り上げます。
SKγクラスでは中学3年生までに高校数学の土台となる数学IAの学習まで終了しております。これから数学IIIBC(ベクトル)の単元学習を進め、文理共通範囲の数学IIABCの基礎をしっかりと固めてから高2以降演習+理系は数学IIIの学習を進めます。
- 課題・授業内容において「負荷をかける時期」をコントロール
早期に必要な計算力を身につけて高校数学の学習をスムーズかつハイスピードで進めるためには、やはり相応の負荷が必要です。いわゆる「できる子」でも年間130時間程度、やり直しや追加課題が必要な子だと年間200時間程度の課題が必要であると考えています。しかしながらそれを年間通じて一定のペースで消化しようとする、「困難な時期」が発生します。学校のある通常期と夏休みなどの長期休暇期間に合わせて適切に課題量を調整するのはもちろん、さらに個別に追加課題が必要な状況においても個々の状況に合わせ、本人と一緒に計画を立て、その通りに進んでいるかをチェックします。また、授業内容に関しても、通常期は「基礎・基本を確実にできるようにすること」を優先し、「発展的な問題」は講習会や学年が上がってからの演習時期で復習とともに繰り返し扱うことで、「余裕のある時期」に知識と処理能力の向上を図ります。

T・SK(高校受験組) 授業の進め方

- 中高一貫校のペースに追いつく
Tクラス・SKクラスでは数学IIIBC(ベクトル)までの単元学習を早期に終え、数学IIABCの入試演習および理系であれば数IIIの単元学習に入るタイミングを早めています。これはなにより「最難関大学の現役合格には中高一貫の先取り学習に追いつくこと」が必要であることに他なりません。特にTクラスでは高1の1年間で数学IIIBC(ベクトル)の単元学習まで完了し、標準的な中高一貫校のカリキュラムに追いつくように設計しています。
- 課題・授業内容において「負荷をかける時期」をコントロール
早期に必要な計算力を身につけて高校数学の学習をスムーズかつハイスピードで進めるためには、やはり相応の負荷が必要です。いわゆる「できる子」でも年間130時間程度、やり直しや追加課題が必要な子だと年間200時間程度の課題が必要であると考えています。しかしながらそれを年間通じて一定のペースで消化しようとする、「困難な時期」が発生します。学校のある通常期と夏休みなどの長期休暇期間に合わせて適切に課題量を調整するのはもちろん、さらに個別に追加課題が必要な状況においても個々の状況に合わせ、本人と一緒に計画を立て、その通りに進んでいるかをチェックします。また、授業内容に関しても、通常期は「基礎・基本を確実にできるようにすること」を優先し、「発展的な問題」は講習会や学年が上がってからの演習時期で復習とともに繰り返し扱うことで、「余裕のある時期」に知識と処理能力の向上を図ります。

【3年間の流れ】

| | TW・SKγ(中高一貫組) | T・SK(高校受験組) |
|----|--|--|
| 高1 | 【TW】 高校数学の基本事項を一通り習得していることを前提とし、各分野の応用問題演習を扱いながら、単元横断的な考え方や解法を習得します。 また、理系の生徒に関しては数学IIIの基本知識をこの1年間で学習します。 【SKγ】 一気に知識や考え方・解法の幅が広がる数学IIIBCを1年間かけて確実に固めていきます。文理共通範囲である数学IIABCの単元学習はここで完了します。 | 【T】 夏休みまでに数学IAの単元学習を終え、それを土台に冬期講習会までに数学IIIBCの単元学習を終えます。この1年間で、まずは標準的な中高一貫校のペースに追いつきます。理系の生徒は、3学期に数学IIIを導入します。 【SK】 冬休みまでに数学IAの基本事項を終え、3学期からは数学IIの先取りを行います。 |
| 高2 | 数学IIABC、数学IIIとともに入試問題を用いての実戦演習を反復し、本番で得点できる解答能力・記述答案作成能力の向上を図ります。 | 【T】 高校数学の基本事項を一通り習得していることを前提とし、各分野の応用問題演習を扱いながら、単元横断的な考え方や解法を習得します。 また、理系の生徒に関しては数学IIIの基本知識をこの1年間で学習します。 【SK】 夏休みまでに数学IIIBCの基本事項を終えます。後期は高校数学の基本事項を一通り習得していることを前提とし、各分野の復習とともに単元横断的な考え方や解法を習得します。また、理系の生徒に関しては数学IIIの基本知識を後期の半年間で学習します。 |
| 高3 | 数学IIABC、数学IIIとともに入試問題を用いての実戦演習を反復し、本番で得点できる解答能力・記述答案作成能力の向上を図ります。 | 【T】【SK】 数学IIABC、数学IIIとともに入試問題を用いての実戦演習を反復し、本番で得点できる解答能力の向上を図ります。 |

【カリキュラム】

| | | 中1 | | | 中2 | | | 中3 | | | |
|------------|---|---------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------------|--------|
| | | 〈1学期〉 | 〈2学期〉 | 〈3学期〉 | 〈1学期〉 | 〈2学期〉 | 〈3学期〉 | 〈1学期〉 | 〈2学期〉 | 〈3学期〉 | |
| TW Booster | α | 中1～中3代数 | | | I導入 | | II導入 | | II導入 | | I II演習 |
| | β | 中1～中3幾何 | | | A導入 | | B導入 | | B導入 | I A II B演習 | |
| TW | α | 中1～中3代数 | | | 中3代数 | I導入 | | II導入 | | | |
| | β | 中1～中3幾何 | | | 中3幾何 | A導入 | I導入 | | B導入 | II演習 | |
| S | α | 中1～中3代数 | | | 中3代数 | 中学代数復習 | | I導入 | | II導入 | |
| | β | 中1～中3幾何 | | | 中3幾何 | 中学幾何復習 | | A導入 | | I A演習 | |

【ノート】

授業に参加するにあたり、以下の3つのノートをご用意ください。

- ① 授業ノート
講義内容（理論の説明部分）、授業内での問題演習部分ともに1冊のノートでまとめて構いません。後から見返す際の見やすさを考えて、ノート左ページを講義内容、右ページを左ページの講義内容と対応する演習問題を解くページとすることを推奨しますが、ある程度自分なりに見やすくなるよう工夫していただいて構いません。講師からの特別な指示がない限り、テキストに直接書き込むことはせず、講師からの説明内容はすべてこのノートに記録してください。
※最低限、黒・赤・青・緑の4色+適宜蛍光ペン1本あれば問題ありません。
- ② 宿題用ノート
宿題用のテキストの問題演習のための専用ノートをご用意ください。毎回の授業時に講師が回収し、宿題チェックを行います。問題を解き、赤ペンで答え合わせをすところまで、このノートに実施してください。
※間違えた問題の解きなおしは③のノートに行ってください。
- ③ 間違いまとめノート
自分の間違えた問題の解きなおし、および「どんな間違いをしてしまったか」を蓄積するノートです。「授業内で間違えてしまった問題」「宿題で間違えてしまった問題」「テストで間違えてしまった問題」、すべてここに記録しましょう。②のノートとともに、毎回の授業で講師がチェックします。

【宿題の量】

学年により多少変動はしますが、概ね以下のような分量の課題が課されます。

- ① 通常期に関しては、 $\alpha\beta$ 合計平均3時間前後/週 × 通常授業30回 ≒ 年間90時間程度
- ② 長期休暇期間に関しては、春休み中、GW、夏休み中、冬休み中で合計40時間程度

①+②で年間130時間程度分の課題が課されます。

また、①②において「間違い箇所が多い場合」は必然的に「やり直しや復習にかかる時間」が増えます。

①で $\alpha\beta$ 合計で通常期平均+1時間、講習会平均+2時間の復習時間が増加

②で長期休暇課題が1.5倍程度に増加

すると仮定すると、

1時間 × 通常30回 + 2時間 × 講習会春夏冬合計11回 + 休暇課題20時間 ≒ 70時間程度

となるため、この場合は年間200時間程度必要です。

【テスト(高1)】

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|
| TW/Tクラス選抜 | 7月、12月に実施します。TW/Tクラスの受講にはこの試験に合格することが必要です。合格者は科目ごとに得点によって選出されますので、単科での受験も可能です。目標点の目安は60点です。またこの試験を当日3科目受験し、優秀な成績を収めた方は「待生」の資格が得られます。高校受験者・新入生対象には3月、4月にも実施します。 | | | | | | | | | | | | |
| | 実施月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 |
| 必修テスト | 記述型全国模試を6月、9月、11月、2月の年4回受験します。単元学習を離れた実力テストで普段の学習がどの程度定着しているかを判断することができます。 | | | | | | | | | | | | |
| | 実施月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
| 月例テスト | 5月より指定月の初回授業冒頭20分間で月例テストを行います。前月学習したテキスト内容から出題されます。目標点数の目安は60点です。 | | | | | | | | | | | | |
| | 実施月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
| 確認テスト | 毎月の第2回目、第3回目の授業において実施します。前週に学習した内容の確認テストを行います。テキストの類題が出題されます。目標点数の目安は60点です。 | | | | | | | | | | | | |
| | 実施月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |

| | | 高1 | | | 高2 | | | 高3 | | |
|-------------|----------|------------|-------|-------|------------|---------|-------|------------|-------|-------|
| | | <1学期> | <2学期> | <3学期> | <1学期> | <2学期> | <3学期> | <1学期> | <2学期> | <3学期> |
| TW | α | III導入 | | | III演習 | | | III演習 | | |
| | β | I II ABC演習 | | | I II ABC演習 | | | I II ABC演習 | | |
| SK γ | | II BC導入 | | | I A II B演習 | | | | | |
| T | α | I導入 | II導入 | III導入 | III導入 | III演習 | C導入 | III演習 | | |
| | β | A導入 | BC導入 | | I II ABC演習 | | | I II ABC演習 | | |
| SK | α | I導入 | II導入 | | II導入 | III C導入 | | III演習 | | |
| | β | A導入 | | BC導入 | BC導入 | III C導入 | | I II ABC演習 | | |

❖ 数学科カリキュラム

高1数学TWα(数学III C)

選抜

中高一貫

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

対象

東大・国公立大医学部などの最難関大学を目指す生徒。
※受講にはTWクラス選抜試験への合格が必要です

講座の目的

数学III Cを基礎から導入します。高1の間に数学III Cを終わらせる先取りカリキュラムとなっており、最難関国公立大学で数多く出題されるIII C分野の早期定着を図ります。

年間を通して数学III Cを基礎から学習することで、複雑な計算を処理できるようにし、学年終了時に東京理科大レベルの問題で合格水準まで解けるようになることを目標とします。

【教材】

■ 数学II B+ベクトル(授業用)、数学III C(授業用)新版

授業で扱われるメインテキストです。導入に使う基礎的な問題から難関大レベルの問題まで幅広く掲載されています。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:テキストおよび授業ノートを見返しながら、まずは授業内で扱った問題が確実に自力で解けることを確認しましょう。授業内で間違えてしまった問題は「間違いまとめノート」に必ず解き直してください。

■ コンプリート 数学III、数学C

宿題に使用する問題演習用のテキストです。

使用法

各回の授業にて講師から範囲が指定されますので、次回の授業までに解いてくるようにしてください。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① コンプリート 数学III、数学C (1週間で1時間程度)

毎週の授業で扱った単元に合わせて、このテキストから指定箇所を宿題として課します。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、赤ペンを用いて答え合わせを行きましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

② 授業テキスト指定題演習 (1週間で2時間程度)

授業テキスト内の講師からの指定箇所を宿題とします。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、答え合わせまで行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

③ 確認テスト・月例テストやり直し (1週間で30分程度)

毎週の授業冒頭で行う確認テストや月例テストに関して、解けなかった問題・間違えてしまった問題を授業ノートや解説で確認し、「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。各テストは60点以上を目標の目安とし、60点に満たない場合は追試もしくは解き直しのチェックを実施します。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 15分 | 諸伝達 5分 | 講義 15分 | 演習 10分 |
| | | 解説 10分 | 講義 15分 |
| | | 演習 10分 | 解説 10分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 授業内容 | 使用テキスト | 確認テスト |
|-----|---|---------------------------------|----------------|-----------------------------|
| 3月 | ① | 【数Ⅱ】§6-7 定積分で表された関数 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅱ】§6-8 定積分と面積 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §6-7 定積分で表された関数 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§6-9 定積分の応用 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §6-8 定積分と面積 |
| 春期 | ① | 【数Ⅲ】§2-1 数列の極限 | 数学ⅢC(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅲ】§2-2 等比数列の極限 | 数学ⅢC(授業用) | §2-1 数列の極限 |
| | ③ | 【数Ⅲ】§2-3 無限級数 [1] | 数学ⅢC(授業用) | §2-2 等比数列の極限 |
| | ④ | 【数Ⅲ】§2-3 無限級数 [2] | 数学ⅢC(授業用) | §2-3 無限級数 [1] |
| 4月 | ① | 【数Ⅲ】§2-4 関数の極限 | 数学ⅢC(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅲ】§2-5 いろいろな関数の極限 | 数学ⅢC(授業用) | §2-4 関数の極限 |
| | ③ | 【数Ⅲ】§2-6 関数の連続性 | 数学ⅢC(授業用) | §2-5 いろいろな関数の極限 |
| 5月 | ① | 【数Ⅲ】§1-1 分数関数 | 数学ⅢC(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅲ】§1-2 無理関数 | 数学ⅢC(授業用) | §1-1 分数関数 |
| | ③ | 【数Ⅲ】§1-3 合成関数・逆関数 | 数学ⅢC(授業用) | §1-2 無理関数 |
| 6月 | ① | 【数Ⅲ】§3-1 導関数の計算 | 数学ⅢC(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅲ】§3-2 各種の関数の導関数 [1] | 数学ⅢC(授業用) | §3-1 導関数の計算 |
| | ③ | 【数Ⅲ】§3-2 各種の関数の導関数 [2] | 数学ⅢC(授業用) | §3-2 各種の関数の導関数 [1] |
| 7月 | ① | 【数Ⅲ】§3-3 高次導関数・いろいろな微分法 | 数学ⅢC(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅲ】§3-4 接線と法線 | 数学ⅢC(授業用) | §3-3 高次導関数・いろいろな微分法 |
| | ③ | 【数Ⅲ】§3-5 平均値の定理 | 数学ⅢC(授業用) | §3-4 接線と法線 |
| 夏期 | ① | 【数Ⅲ】§3-6 関数の増減と極値 / §3-7 グラフの凹凸 | 数学ⅢC(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅲ】§3-8 関数の最大・最小 | 数学ⅢC(授業用) | §3-6 関数の増減と極値 / §3-7 グラフの凹凸 |
| | ③ | 【数Ⅲ】§3-9 方程式・不等式への応用 | 数学ⅢC(授業用) | §3-8 関数の最大・最小 |
| 9月 | ① | 【数Ⅲ】§4-1 不定積分 [1] | 数学ⅢC(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅲ】§4-1 不定積分 [2] | 数学ⅢC(授業用) | §4-1 不定積分 [1] |
| | ③ | 【数Ⅲ】§4-2 いろいろな関数の不定積分 | 数学ⅢC(授業用) | §4-1 不定積分 [2] |
| 10月 | ① | 【数Ⅲ】§4-3 定積分① | 数学ⅢC(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅲ】§4-4 定積分② | 数学ⅢC(授業用) | §4-3 定積分① |
| | ③ | 【数Ⅲ】§4-5 定積分で表された関数 | 数学ⅢC(授業用) | §4-4 定積分② |
| 11月 | ① | 【数Ⅲ】§4-6 定積分と面積① | 数学ⅢC(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅲ】§4-7 定積分と面積② | 数学ⅢC(授業用) | §4-6 定積分と面積① |
| | ③ | 【数Ⅲ】§4-8 定積分と体積 | 数学ⅢC(授業用) | §4-7 定積分と面積② |
| 12月 | ① | 【数Ⅲ】§4-1～§4-8のまとめと発展演習 | 数学ⅢC(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅲ】§4-9 区分求積法・不等式への応用 | 数学ⅢC(授業用) | §4-1～§4-8のまとめと発展演習 |
| | ③ | 【数Ⅲ】§4-10 曲線の長さ | 数学ⅢC(授業用) | §4-9 区分求積法・不等式への応用 |
| 冬期 | ① | 【数C】§5-1 複素数平面 | 数学ⅢC(授業用) | — |
| | ② | 【数C】§5-2 複素数の極形式① | 数学ⅢC(授業用) | §5-1 複素数平面 |
| | ③ | 【数C】§5-3 複素数の極形式② | 数学ⅢC(授業用) | §5-2 複素数の極形式① |
| | ④ | 【数C】§5-4 複素数平面上の図形 | 数学ⅢC(授業用) | §5-3 複素数の極形式② |
| 1月 | ① | 【数C】§6-1 放物線・楕円・双曲線 [1] | 数学ⅢC(授業用) | — |
| | ② | 【数C】§6-1 放物線・楕円・双曲線 [2] | 数学ⅢC(授業用) | §6-1 放物線・楕円・双曲線 [1] |
| | ③ | 【数C】§6-2 二次曲線と直線 | 数学ⅢC(授業用) | §6-1 放物線・楕円・双曲線 [2] |
| 2月 | ① | 【数C】§6-3 媒介変数表示 | 数学ⅢC(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数C】§6-4 極座標と極方程式 | 数学ⅢC(授業用) | §6-3 媒介変数表示 |
| | ③ | 【数C】§6 発展演習 | 数学ⅢC(授業用) | §6-4 極座標と極方程式 |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

❖ 数学科カリキュラム

高1数学TWβ(数学ⅡABC演習)

選抜

中高一貫

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
85分

対象

東大・国公立大医学部などの最難関大学を目指す生徒。
※受講にはTWクラス選抜試験への合格が必要です

講座の目的

中3時点ですでに学習を終えている数学ⅡABCの総復習を行います。速いカリキュラムで進んできたため、個々に不安な単元があるのではないのでしょうか？ この講座では単元別に総復習をしていくことで頻出問題の解法を身につけ、より高度な発想力・記述力・問題処理力を鍛えていきます。

学年終了時に、東京理科大レベルの問題で合格水準まで解けるようになることを目標とします。

【教材】※講習会は別テキストです。

■ 高1数学TWβ(前期・後期)

授業で扱われるメインテキストです。導入に使う基礎的な問題から難関大レベルの問題まで幅広く掲載されています。

使用法

予習:前期に関しては、不安な単元は次回の「計算問題」を解いて確認しておきましょう。

授業:授業は「導入⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:テキストおよび授業ノートを見返しながら、まずは授業内で扱った問題が確実に自力で解けることを確認しましょう。授業内で間違えてしまった問題は「間違いまとめノート」に必ず解き直してください。授業内で扱った問題番号と同じ番号の演習題とが1対1で対応していますので、解き直しをしたうえで演習題を解くことによって定着度を高めます。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① 授業テキスト指定題演習(1週間で2時間程度)

授業テキスト内の講師からの指定箇所を宿題とします。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、答え合わせまで行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

② 確認テスト・月例テストやり直し(1週間で30分程度)

毎週の授業冒頭で行う確認テストや月例テストに関して、解けなかった問題・間違えてしまった問題を授業ノートや解説で確認し、「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。各テストは60点以上を目標の目安とし、60点に満たない場合は追試もしくは解き直しのチェックを実施します。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 15分 | 諸伝達 5分 | 講義 15分 | 演習 10分 |
| | | 解説 10分 | 講義 15分 |
| | | 演習 10分 | 解説 10分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 授業内容 | 確認テスト |
|-----|---|---------------------------|---------------|
| 3月 | ① | 【数IIIABC演習】数列① | - |
| | ② | 【数IIIABC演習】数列② | 数列① |
| | ③ | 【数IIIABC演習】数列③ | 数列② |
| 春期 | ① | 【数III速習】三角比・三角関数 | - |
| | ② | 【数III速習】指数関数・対数関数 | - |
| | ③ | 【数III速習】微分 | - |
| | ④ | 【数III速習】積分 | - |
| 4月 | ① | 【数IIIABC演習】数と式 | - |
| | ② | 【数IIIABC演習】2次関数① | 数と式 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】2次関数② | 2次関数① |
| 5月 | ① | 【数IIIABC演習】三角比 | 月例テスト |
| | ② | 【数IIIABC演習】場合の数 | 三角比 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】確率 | 場合の数 |
| 6月 | ① | 【数IIIABC演習】整式の割り算 | 月例テスト |
| | ② | 【数IIIABC演習】方程式 | 整式の割り算 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】座標平面① | 方程式 |
| 7月 | ① | 【数IIIABC演習】座標平面② | 月例テスト |
| | ② | 【数IIIABC演習】三角関数① | 座標平面② |
| | ③ | 【数IIIABC演習】三角関数② | 三角関数① |
| 夏期 | ① | 【数IIIABC演習】微積分① | - |
| | ② | 【数IIIABC演習】微積分② | - |
| | ③ | 【数IIIABC演習】微積分③ | - |
| 9月 | ① | 【数IIIABC演習】第1講:数と式 | - |
| | ② | 【数IIIABC演習】第2講:2次関数 | 第1講:数と式 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】第3講:図形と計量 | 第2講:2次関数 |
| 10月 | ① | 【数IIIABC演習】第4講:場合の数 | 月例テスト |
| | ② | 【数IIIABC演習】第5講:確率 | 第4講:場合の数 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】第6講:集合 | 第5講:確率 |
| 11月 | ① | 【数IIIABC演習】第7講:式と証明 | 月例テスト |
| | ② | 【数IIIABC演習】第8講:複素数 | 第7講:式と証明 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】第9講:指数対数 | 第8講:複素数 |
| 12月 | ① | 【数IIIABC演習】第10講:三角関数 | 月例テスト |
| | ② | 【数IIIABC演習】第11講:座標 | 第10講:三角関数 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】第12講:軌跡 | 第11講:座標 |
| 冬期 | ① | 【数IIIABC演習】漸化式① | - |
| | ② | 【数IIIABC演習】漸化式② | - |
| | ③ | 【数IIIABC演習】数的帰納法① | - |
| | ④ | 【数IIIABC演習】数的帰納法② | - |
| 1月 | ① | 【数IIIABC演習】第13講:整数 | - |
| | ② | 【数IIIABC演習】第14講:平面ベクトル | 第13講:整数 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】第15講:空間ベクトル | 第14講:平面ベクトル |
| 2月 | ① | 【数IIIABC演習】第18講:微分法とその応用 | 月例テスト |
| | ② | 【数IIIABC演習】第19講:積分の数式的側面 | 第18講:微分法とその応用 |
| | ③ | 【数IIIABC演習】第20講:積分の面積への応用 | 第19講:積分の数式的側面 |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

❖ 数学科カリキュラム

高1数学T α (数学IⅡⅢ)

選抜

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

対象

東大・国公立大医学部などの最難関大学を目指す生徒。
※受講にはTクラス選抜試験への合格が必要です

講座の目的

開成高などの高校入試トップクラスの高校に合わせた非常に速い先取りカリキュラムで進んでいきます。各単元における頻出問題の定着に留まらず融合問題も扱い、単元を超えた数学的視点を養うことで、発想力・記述力・問題処理力を向上させます。

学年終了時に、大学入学共通テストレベルの数学ⅠAで8割を取ることを目標とします。

【教材】

■ 数学ⅠA(授業用)新版、数学ⅡB+ベクトル(授業用)新版、数学ⅢC(授業用)新版

授業で扱われるメインテキストです。導入に使う基礎的な問題から難関大レベルの問題まで幅広く掲載されています。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:テキストおよび授業ノートを見返しなが、まずは授業内で扱った問題が確実に自力で解けることを確認しましょう。授業内で間違えてしまった問題は「間違いまとめノート」に必ず解き直してください。

■ 講習会テキスト(春期講習会で使用)

講習会で使用する問題演習用のテキストです。難度の高い演習問題も複数掲載していますので、講習会後の自習教材としても利用できます。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:授業で触れた内容を再現できるように解き直しておくだけでも今後余裕を持って高校数学を進められるようになります。数ⅡBの内容にも少し触れる内容となっているので、余裕のある人はその先取り内容の問題演習もしておくといでしょう。

■ チャート式基礎からの数学(青チャート)(『Focus Gold』『NEW ACTION LEGEND』も可)

使用法

授業にて講師から指定された箇所を解いてくるようにしてください。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① チャート式基礎からの数学(青チャート)(『Focus Gold』『NEW ACTION LEGEND』も可)

担当講師より、指定箇所を宿題として課します。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、赤ペンを用いて答え合わせを行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

② 授業テキスト指定題演習(1週間で1時間程度)

授業テキスト内の講師からの指定箇所を宿題とします。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、答え合わせまで行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

③ 確認テスト・月例テストやり直し(1週間で30分程度)

毎週の授業冒頭で行う確認テストや月例テストに関して、解けなかった問題・間違えてしまった問題を授業ノートや解説で確認し、「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。各テストは60点以上を目標の目安とし、60点に満たない場合は追試もしくは解き直しのチェックを実施します。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 15分 | 諸伝達 5分 | 講義 15分 | 演習 10分 |
| 解説 10分 | 講義 15分 | 演習 10分 | 解説 10分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 授業内容 | 使用テキスト | 確認テスト |
|-----|---|------------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 春期 | ① | 【数Ⅰ】 因数分解① | 春期テキスト | — |
| | ② | 【数Ⅰ】 因数分解② | 春期テキスト | 因数分解① |
| | ③ | 【数Ⅰ】 整式の除法・高次方程式 | 春期テキスト | 因数分解② |
| | ④ | 【数Ⅰ】 解と係数の関係・次数下げ | 春期テキスト | 整式の除法・高次方程式 |
| 4月 | ① | 【数Ⅰ】 §2-1 二次方程式の解の公式と判別式 | 数学IA(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅰ】 §2-2 二次関数の基本 | 数学IA(授業用) | §2-1 二次方程式の解の公式と判別式 |
| | ③ | 【数Ⅰ】 §2-3 二次関数の最大・最小 [1] | 数学IA(授業用) | §2-2 二次関数の基本 |
| 5月 | ① | 【数Ⅰ】 §2-3 二次関数の最大・最小 [2] | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅰ】 §2-4 二次不等式 | 数学IA(授業用) | §2-3 二次関数の最大・最小 [2] |
| | ③ | 【数Ⅰ】 §2-5 二次方程式の解の配置 | 数学IA(授業用) | §2-4 二次不等式 |
| 6月 | ① | 【数Ⅰ】 §4-1 三角比①(鋭角)/ §4-2 三角比②(一般角) | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅰ】 §4-4 正弦定理・余弦定理 [1] | 数学IA(授業用) | §4-1 三角比①(鋭角)/ §4-2 三角比②(一般角) |
| | ③ | 【数Ⅰ】 §4-4 正弦定理・余弦定理 [2] | 数学IA(授業用) | §4-4 正弦定理・余弦定理 [1] |
| 7月 | ① | 【数Ⅰ】 §4-5 三角形の面積 [1] | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅰ】 §4-5 三角形の面積 [2] | 数学IA(授業用) | §4-5 三角形の面積 [1] |
| | ③ | 【数IA】 空間図形 | 数学IA(授業用) | §4-5 三角形の面積 [2] |
| 夏期 | ① | 【数Ⅱ】 §5-1 指数の拡張 / §5-2 指数関数 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅱ】 §5-3 対数とその性質 / §5-4 対数関数 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §5-1 指数の拡張 / §5-2 指数関数 |
| | ③ | 【数Ⅱ】 §5-5 常用対数 / 発展問題演習 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §5-3 対数とその性質 / §5-4 対数関数 |
| 9月 | ① | 【数Ⅱ】 §4-1 弧度法・三角関数の性質とグラフ | 数学IIB+ベクトル(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅱ】 §4-2 三角関数の方程式と不等式 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §4-1 弧度法・三角関数の性質とグラフ |
| | ③ | 【数Ⅱ】 §4-2 三角関数の方程式と不等式 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §4-2 三角関数の方程式と不等式 [1] |
| 10月 | ① | 【数Ⅱ】 §4-3 加法定理 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅱ】 §4-4 加法定理の応用① | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §4-3 加法定理 |
| | ③ | 【数Ⅱ】 §6-1 微分係数と導関数 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §4-4 加法定理の応用① |
| 11月 | ① | 【数Ⅱ】 §6-2 接線 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅱ】 §6-3 関数の増減と極値 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-2 接線 |
| | ③ | 【数Ⅱ】 §6-4 最大値と最小値 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-3 関数の増減と極値 |
| 12月 | ① | 【数Ⅱ】 §6-5 方程式・不等式への応用 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅱ】 §6 発展演習① | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-5 方程式・不等式への応用 |
| | ③ | 【数Ⅱ】 §6 発展演習② | 数学IIB+ベクトル(授業用) | — |
| 冬期 | ① | 【数Ⅱ】 §6-6 不定積分・定積分 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅱ】 §6-7 定積分で表された関数 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-6 不定積分・定積分 |
| | ③ | 【数Ⅱ】 §6-8 定積分と面積 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-7 定積分で表された関数 |
| | ④ | 【数Ⅱ】 §6-9 定積分の応用 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-8 定積分と面積 |
| 1月 | ① | 【数Ⅲ】 §2-1 数列の極限 | 数学IIIC(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅲ】 §2-2 等比数列の極限 | 数学IIIC(授業用) | §2-1 数列の極限 |
| | ③ | 【数Ⅲ】 §2-3 無限級数 | 数学IIIC(授業用) | §2-2 等比数列の極限 |
| 2月 | ① | 【数Ⅲ】 §2-4 関数の極限 | 数学IIIC(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅲ】 §2-5 いろいろな関数の極限 | 数学IIIC(授業用) | §2-4 関数の極限 |
| | ③ | 【数Ⅲ】 §2-6 関数の連続性 | 数学IIIC(授業用) | §2-5 いろいろな関数の極限 |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

❖ 数学科カリキュラム

高1数学T β (数学I II ABC)

選抜

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

対象

東大・国公立大医学部などの最難関大学を目指す生徒。
※受講にはTクラス選抜試験への合格が必要です

講座の目的

開成高などの高校入試トップクラスの高校に合わせた非常に速い先取りカリキュラムで進んでいきます。各単元における頻出問題の定着に留まらず融合問題も扱い、単元を超えた数学的視点を養うことで、発想力・記述力・問題処理力を向上させます。

学年終了時に、大学入学共通テストレベルの数学IAで8割を取ることを目標とします。

【教材】

■ 数学IA(授業用)新版、数学IIB+ベクトル(授業用)新版

授業で扱われるメインテキストです。導入に使う基礎的な問題から難関大レベルの問題まで幅広く掲載されています。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:テキストおよび授業ノートを見返しなが、まずは授業内で扱った問題が確実に自力で解けることを確認しましょう。授業内で間違えてしまった問題は「間違いまとめノート」に必ず解き直してください。

■ 講習会テキスト(春期講習会で使用)

講習会で使用する問題演習用のテキストです。難度の高い演習問題も複数掲載していますので、講習会後の自習教材としても利用できます。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:授業で触れた内容を再現できるように解き直しておくだけでも今後余裕を持って高校数学を進められるようになります。数IIBの内容にも少し触れる内容となっているので、余裕のある人はその先取り内容の問題演習もしておくといでしょう。

■ チャート式基礎からの数学(青チャート)(『Focus Gold』『NEW ACTION LEGEND』も可)

使用法

授業にて講師から指定された箇所を解いてくるようにしてください。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① チャート式基礎からの数学(青チャート)(『Focus Gold』『NEW ACTION LEGEND』も可)

担当講師より、指定箇所を宿題として課します。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、赤ペンを用いて答え合わせを行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

② 授業テキスト指定題演習(1週間で1時間程度)

授業テキスト内の講師からの指定箇所を宿題とします。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、答え合わせまで行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

③ 確認テスト・月例テストやり直し(1週間で30分程度)

毎週の授業冒頭で行う確認テストや月例テストに関して、解けなかった問題・間違えてしまった問題を授業ノートや解説で確認し、「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。各テストは60点以上を目標の目安とし、60点に満たない場合は追試もしくは解き直しのチェックを実施します。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 15分 | 諸伝達 5分 | 講義 15分 | 演習 10分 |
| | | 解説 10分 | 講義 15分 |
| | | 演習 10分 | 解説 10分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 授業内容 | 使用テキスト | 確認テスト |
|-----|---|----------------------------------|----------------|------------------------------|
| 春期 | ① | 【数Ⅰ】集合 | 春期テキスト | — |
| | ② | 【数Ⅰ】命題と条件 | 春期テキスト | 集合 |
| | ③ | 【数Ⅰ】命題と証明① | 春期テキスト | 命題と条件 |
| | ④ | 【数Ⅰ】命題と証明② | 春期テキスト | 命題と証明① |
| 4月 | ① | 【数A】§6-1 順列 / §6-2 組合せ | 数学IA(授業用) | — |
| | ② | 【数A】§6-3 円順列・数珠順列 | 数学IA(授業用) | §6-1 順列 / §6-2 組合せ |
| | ③ | 【数A】§6-4 重複組合せ | 数学IA(授業用) | §6-3 円順列・数珠順列 |
| 5月 | ① | 【数A】§7-1 確率 | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数A】§7-2 独立な試行の確率 | 数学IA(授業用) | §7-1 確率 |
| | ③ | 【数A】§7-3 条件付き確率 | 数学IA(授業用) | §7-2 独立な試行の確率 |
| 6月 | ① | 【数A】§7-4 期待値・分散 | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数A】§8-1 約数・倍数 | 数学IA(授業用) | §7-4 期待値・分散 |
| | ③ | 【数A】§8-2 不定方程式 | 数学IA(授業用) | §8-1 約数・倍数 |
| 7月 | ① | 【数A】§8-3 剰余による分類 [1] | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数A】§8-3 剰余による分類 [2] | 数学IA(授業用) | §8-3 剰余による分類 [1] |
| | ③ | 【数A】§8-4 不等式と整数の問題 | 数学IA(授業用) | §8-3 剰余による分類 [2] |
| 夏期 | ① | 【数Ⅱ】§1-1 二項定理、多項式の除法と分数式 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅱ】§1-2 恒等式 / §1-3 等式の証明 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §1-1 二項定理、多項式の除法と分数式 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§1-4 不等式の証明①/§1-5 不等式の証明② | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §1-2 恒等式 / §1-3 等式の証明 |
| 9月 | ① | 【数Ⅱ】§2-1 複素数と方程式 / §2-2 解と係数の関係 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅱ】§2-3 剰余の定理・因数定理 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §2-1 複素数と方程式 / §2-2 解と係数の関係 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§2-4 高次方程式 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §2-3 剰余の定理・因数定理 |
| 10月 | ① | 【数B】§7-1 等差数列 / §7-2 等比数列 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数B】§7-3 和の記号Σと階差数列 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §7-1 等差数列 / §7-2 等比数列 |
| | ③ | 【数B】§7-4 いろいろな数列 [1] | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §7-3 和の記号Σと階差数列 |
| 11月 | ① | 【数B】§7-4 いろいろな数列 [2] | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数B】§7-5 漸化式と数列① [1] | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §7-4 いろいろな数列 [2] |
| | ③ | 【数B】§7-5 漸化式と数列① [2] | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §7-5 漸化式と数列① [1] |
| 12月 | ① | 【数B】§7-6 漸化式と数列② [1] | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数B】§7-6 漸化式と数列② [2] | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §7-6 漸化式と数列② [1] |
| | ③ | 【数B】§7-7 数学的帰納法 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §7-6 漸化式と数列② [2] |
| 冬期 | ① | 【数C】§8-1 ベクトルの演算と成分/§8-2 ベクトルの内積 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | — |
| | ② | 【数C】§8-3 位置ベクトル/§8-4 ベクトル方程式 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §8-1 ベクトルの演算と成分/§8-2 ベクトルの内積 |
| | ③ | 【数C】§8-5 平面ベクトルと平面図形 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §8-3 位置ベクトル/§8-4 ベクトル方程式 |
| | ④ | 【数C】§8-6 空間ベクトル/§8-7 空間ベクトルと空間図形 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §8-5 平面ベクトルと平面図形 |
| 1月 | ① | 【数Ⅱ】§3-1 座標平面上の点/§3-2 直線の方程式 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | — |
| | ② | 【数Ⅱ】§3-3 直線に関するいろいろな問題 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §3-1 座標平面上の点/§3-2 直線の方程式 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§3-4 円と直線① | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §3-3 直線に関するいろいろな問題 |
| 2月 | ① | 【数Ⅱ】§3-5 円と直線② | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅱ】§3-6 軌跡と方程式 | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §3-5 円と直線② |
| | ③ | 【数Ⅱ】§3-7 不等式の表す領域① | 数学ⅡB+ベクトル(授業用) | §3-6 軌跡と方程式 |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

高1数学SK α (数学Ⅱ)

対象

早慶上智大・国立大などの難関大学を目指す生徒。

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

講座の目的

このクラスでは数学Ⅱを中心に学習していき、各単元における基本事項をしっかりと定着させます。夏期中に数学Ⅰを終わらせ、2学期からは数学Ⅱに入っていきます。授業では頻出問題だけでなく入試問題も適宜扱っていくことで、得点につながる答案作成力を鍛えていきます。

一般的な公立高校より少し先を進めていくカリキュラムになっていますので、学校の予習にもなります。

学年終了時に、大学入学共通テストレベルの数学ⅠAで6割以上を取ることを目標とします。

【教材】

■ 数学ⅠA(授業用)新版、数学ⅡB+ベクトル(授業用)新版

授業で扱われるメインテキストです。導入に使う基礎的な問題から難関大レベルの問題まで幅広く掲載されています。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:授業で扱った問題の解き直しに取り組みましょう。

■ 講習会テキスト(春期講習会で使用)

講習会で使用する問題演習用のテキストです。講習会後の自習教材としても利用できます。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:さまざまなパターンの問題をテーマごとに掲載しています。また詳しい解答・解説のページも設けていますので、解けなかった問題の解法も理解することができます。

■ コンプリート 数学Ⅰ、数学Ⅱ

宿題に使用する問題演習用のテキストです。

使用法

授業にて講師から範囲が指定されますので、次回の授業までに解いてくるようにしてください。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① コンプリート 数学Ⅰ、数学Ⅱ(1週間で1時間程度)

毎週の授業で扱った単元に合わせて、このテキストから指定箇所を宿題として課します。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、赤ペンを用いて答え合わせを行います。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

② 授業テキスト指定題演習(1週間で1時間程度)

授業テキスト内の講師からの指定箇所を宿題とします。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、答え合わせまで行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

③ 確認テスト・月例テストやり直し(1週間で30分程度)

毎週の授業冒頭で行う確認テストや月例テストに関して、解けなかった問題・間違えてしまった問題を授業ノートや解説で確認し、「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。各テストは60点以上を目標の目安とし、60点に満たない場合は追試もしくは解き直しのチェックを実施します。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|---------------------|------------------|------------------|------------------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 15分 | 諸伝達 5分 | 講義 15分 | 演習 10分 |
| 解説 10分 | 講義 15分 | 演習 10分 | 解説 10分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 授業内容 | 使用テキスト | 確認テスト |
|-----|---|---|-----------------|---|
| 春期 | ① | 【数Ⅰ】因数分解① | 春期テキスト | - |
| | ② | 【数Ⅰ】因数分解② | 春期テキスト | 因数分解① |
| | ③ | 【数Ⅰ】整式の除法・高次方程式 | 春期テキスト | 因数分解② |
| | ④ | 【数Ⅰ】解と係数の関係、次数下げ | 春期テキスト | 整式の除法・高次方程式 |
| 4月 | ① | 【数Ⅰ】§1-1 展開と因数分解 | 数学IA(授業用) | - |
| | ② | 【数Ⅰ】§1-2 実数 | 数学IA(授業用) | §1-1 展開と因数分解 |
| | ③ | 【数Ⅰ】§1-3 対称式 | 数学IA(授業用) | §1-2 実数 |
| 5月 | ① | 【数Ⅰ】§1-4 絶対値 | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅰ】§2-1 2次方程式の解の公式と判別式 | 数学IA(授業用) | §1-4 絶対値 |
| | ③ | 【数Ⅰ】§2-2 2次関数の基本 | 数学IA(授業用) | §2-1 2次方程式の解の公式と判別式 |
| 6月 | ① | 【数Ⅰ】§2-3 2次関数の最大・最小 [1] | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅰ】§2-3 2次関数の最大・最小 [2] | 数学IA(授業用) | §2-3 2次関数の最大・最小 |
| | ③ | 【数Ⅰ】§2-4 2次不等式 [1] | 数学IA(授業用) | §2-3 2次関数の最大・最小 |
| 7月 | ① | 【数Ⅰ】§2-4 2次不等式 [2] | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅰ】§2-5 2次方程式の解の配置 [1] | 数学IA(授業用) | §2-4 2次不等式 |
| | ③ | 【数Ⅰ】§2-5 2次方程式の解の配置 [2] | 数学IA(授業用) | §2-5 2次方程式の解の配置 |
| 夏期 | ① | 【数Ⅰ】§4-1 三角比①(鋭角) / §4-2 三角比②(-一般角) | 数学IA(授業用) | - |
| | ② | 【数Ⅰ】§4-3 方程式と不等式 | 数学IA(授業用) | §4-1 三角比①(鋭角) / §4-2 三角比②(-一般角) |
| | ③ | 【数Ⅰ】§4-4 正弦定理・余弦定理 / §4-5 三角形の面積 | 数学IA(授業用) | §4-3 方程式と不等式 |
| 9月 | ① | 【数Ⅱ】§1-1 二項定理, 多項式の除法と分数式 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | - |
| | ② | 【数Ⅱ】§1-1 二項定理, 多項式の除法と分数式 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §1-1 二項定理, 多項式の除法と分数式 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§1-2 恒等式 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §1-1 二項定理, 多項式の除法と分数式 |
| 10月 | ① | 【数Ⅱ】§1-3 等式の証明 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅱ】§1-4 不等式の証明① | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §1-3 等式の証明 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§1-5 不等式の証明② | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §1-4 不等式の証明① |
| 11月 | ① | 【数Ⅱ】§2-1 複素数と方程式 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅱ】§2-2 解と係数の関係 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §2-1 複素数と方程式 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§2-2 解と係数の関係 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §2-2 解と係数の関係 |
| 12月 | ① | 【数Ⅱ】§2-3 剰余の定理・因数定理 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅱ】§2-4 高次方程式 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §2-3 剰余の定理・因数定理 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§2-4 高次方程式 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §2-4 高次方程式 |
| 冬期 | ① | 【数Ⅱ】§3-1 座標平面上の点 / §3-2 直線の方程式 / §3-3 直線に関するいろいろな問題 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | - |
| | ② | 【数Ⅱ】§3-4 円と直線① / §3-5 円と直線② | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §3-1 座標平面上の点 / §3-2 直線の方程式 / §3-3 直線に関するいろいろな問題 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§3-6 軌跡と方程式 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §3-4 円と直線① / §3-5 円と直線② |
| | ④ | 【数Ⅱ】§3-7 不等式の表す領域① / §3-8 不等式の表す領域② | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §3-6 軌跡と方程式 |
| 1月 | ① | 【数Ⅱ】§4-1 弧度法・三角関数の性質とグラフ | 数学IIB+ベクトル(授業用) | - |
| | ② | 【数Ⅱ】§4-2 三角関数の方程式と不等式 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §4-1 弧度法・三角関数の性質とグラフ |
| | ③ | 【数Ⅱ】§4-2 三角関数の方程式と不等式 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §4-2 三角関数の方程式と不等式 |
| 2月 | ① | 【数Ⅱ】§4-3 加法定理 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数Ⅱ】§4-4 加法定理の応用① | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §4-3 加法定理 |
| | ③ | 【数Ⅱ】§4-5 加法定理の応用② | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §4-4 加法定理の応用① |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

高1数学SK β (数学IAB)

対象

早慶上智大・国公立大などの難関大学を目指す生徒。

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

講座の目的

数学Aを中心に学習していき、各単元における基本事項をしっかりと定着させます。2学期中に数学Aを終わらせるカリキュラムです。3学期からは数学Bに入っていきます。授業では頻出問題だけでなく入試問題も適宜扱っていくことで、得点につながる答案作成力を鍛えていきます。

一般的な公立高校より少し先を進めていくカリキュラムになっていますので、学校の予習にもなります。

学年終了時に、大学入学共通テストレベルの数学I Aで6割以上を取ることを目標とします。

【教材】 ※講習会は別テキストです。

■ 数学I A(授業用)新版、数学I B+ベクトル(授業用)新版

授業で扱われるメインテキストです。導入に使う基礎的な問題から難関大レベルの問題まで幅広く掲載されています。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:授業で扱った問題の解き直しに取り組みましょう。

■ 「数A:図形」テキスト

9月・10月の授業で使用するテキストです。

■ 「数A演習」テキスト

12月の授業で使用する演習用のテキストです。

■ コンプリート 数学I、数学A、数学B

宿題に使用する問題演習用のテキストです。

使用法

授業にて講師から範囲が指定されますので、次回の授業までに解いてくるようにしてください。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① コンプリート 数学I、数学A、数学B (1週間で1時間程度)

毎週の授業で扱った単元に合わせて、このテキストから指定箇所を宿題として課します。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、赤ペンを用いて答え合わせを行います。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

② 授業テキスト指定題演習 (1週間で1時間程度)

授業テキスト内の講師からの指定箇所を宿題とします。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、答え合わせまでを行います。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

③ 確認テスト・月例テストやり直し (1週間で30分程度)

毎週の授業冒頭で行う確認テストや月例テストに関して、解けなかった問題・間違えてしまった問題を授業ノートや解説で確認し、「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。各テストは60点以上を目標の目安とし、60点に満たない場合は追試もしくは解き直しのチェックを実施します。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|---------------------|------------------|------------------|------------------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 15分 | 諸伝達 5分 | 講義 15分 | 演習 10分 |
| 解説 10分 | 講義 15分 | 演習 10分 | 解説 10分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。 ・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 授業内容 | 使用テキスト | 確認テスト |
|-----|---|------------------------|-----------------|----------------|
| 4月 | ① | 【数A】§6-1 順列 | 数学IA(授業用) | - |
| | ② | 【数A】§6-2 組合せ | 数学IA(授業用) | §6-1 順列 |
| | ③ | 【数A】§6-3 円順列・数珠順列 | 数学IA(授業用) | §6-2 組合せ |
| 5月 | ① | 【数A】§6-4 重複組合せ | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数A】§7-1 確率 | 数学IA(授業用) | §6-4 重複組合せ |
| | ③ | 【数A】§7-2 独立な試行の確率 [1] | 数学IA(授業用) | §7-1 確率 |
| 6月 | ① | 【数A】§7-2 独立な試行の確率 [2] | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数A】§7-3 条件付き確率 | 数学IA(授業用) | §7-2 独立な試行の確率 |
| | ③ | 【数A】§7-4 期待値・分散 | 数学IA(授業用) | §7-3 条件付き確率 |
| 7月 | ① | 【数I】§3-1 集合 | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数I】§3-2 命題と条件 | 数学IA(授業用) | §3-1 集合 |
| | ③ | 【数I】§3-3 命題と証明 | 数学IA(授業用) | §3-2 命題と条件 |
| 夏期 | ① | 【数IA演習】場合の数 | 夏期テキスト | - |
| | ② | 【数IA演習】確率 | 夏期テキスト | - |
| | ③ | 【数IA演習】2次関数 | 夏期テキスト | - |
| 9月 | ① | 【数A】図形:平行、相似、合同 | 「数A:図形」テキスト | - |
| | ② | 【数A】図形:三角形 | 「数A:図形」テキスト | 図形:平行、相似、合同 |
| | ③ | 【数A】図形:円 [1] | 「数A:図形」テキスト | 図形:三角形 |
| 10月 | ① | 【数A】図形:円 [2] | 「数A:図形」テキスト | 月例テスト |
| | ② | 【数A】図形:空間図形 [1] | 「数A:図形」テキスト | 図形:円 [2] |
| | ③ | 【数A】図形:空間図形 [2] | 「数A:図形」テキスト | 図形:空間図形 [1] |
| 11月 | ① | 【数A】§8-1 約数・倍数 [1] | 数学IA(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数A】§8-1 約数・倍数 [2] | 数学IA(授業用) | §8-1 約数・倍数 [1] |
| | ③ | 【数A】§8-2 不定方程式 | 数学IA(授業用) | §8-1 約数・倍数 [2] |
| 12月 | ① | 【数A演習】場合の数・確率演習 | 「数A演習」テキスト | 月例テスト |
| | ② | 【数A演習】図形演習 | 「数A演習」テキスト | 場合の数・確率演習 |
| | ③ | 【数A演習】整数演習 | 「数A演習」テキスト | 図形演習 |
| 冬期 | ① | 【数I演習】数と式 | 冬期テキスト | - |
| | ② | 【数I演習】2次関数① | 冬期テキスト | - |
| | ③ | 【数I演習】2次関数② | 冬期テキスト | - |
| | ④ | 【数I演習】三角比 | 冬期テキスト | - |
| 1月 | ① | 【数B】§7-1 等差数列 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | - |
| | ② | 【数B】§7-2 等比数列 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-1 等差数列 |
| | ③ | 【数B】§7-3 和の記号と階差数列 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-2 等比数列 |
| 2月 | ① | 【数B】§7-3 和の記号と階差数列 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数B】§7-4 いろいろな数列 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-3 和の記号と階差数列 |
| | ③ | 【数B】§7-4 いろいろな数列 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-4 いろいろな数列 |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

高1数学SKy (数学IIBC)

中高一貫

対象

早慶上智大・国立大などの難関大学を目指す中高一貫校に通っている生徒。

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

講座の目的

数学IIBCを導入から始めていき、各単元における基本事項をしっかりと定着させます。高1の間に数学IIB(「ベクトル」も含む)を終わらせるカリキュラムです。授業では頻出問題だけでなく入試問題も適宜扱っていくことで、得点につながる答案作成力を鍛えていきます。

学年終了時に、大学入学共通テストレベルの問題で6割以上を取ることを目標とします。

【教材】

■ 数学IIB+ベクトル(授業用)

授業で扱われるメインテキストです。導入に使う基礎的な問題から難関大レベルの問題まで幅広く掲載されています。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:授業は「導入⇒例題解説⇒問題演習⇒解説⇒導入⇒…」の流れで進んでいきます。

復習:テキストおよび授業ノートを返しながら、まずは授業内で扱った問題が確実に自力で解けることを確認しましょう。授業内で間違えてしまった問題は「間違いまとめノート」に必ず解き直してください。

■ 演習用テキスト

講習会以外の演習実施回では、メインテキストではなく演習用テキストを配布し使用します。

■ 講習会テキスト(春期・夏期講習会で使用)

講習会で使用する問題演習用のテキストです。入試問題を中心に掲載していますので、講習会後の自習教材としても利用できます。

使用法

予習:原則として予習の必要はありません。

授業:春期講習会と夏期講習会では既習分野の問題演習中心の授業になります。

復習:さまざまなパターンの問題をテーマごとに掲載しています。自分の苦手な範囲の問題を中心に演習してください。また詳しい解答・解説のページも設けていますので、解けなかった問題の解法も理解することができます。

■ コンプリート 数学II、数学B、数学C

宿題に使用する問題演習用のテキストです。

使用法

各回の授業にて講師から範囲が指定されますので、次回の授業までに解いてくるようにしてください。

【宿題】

宿題には以下のものがあります。

① コンプリート 数学II、数学B、数学C (1週間で1時間程度)

毎週の授業で扱った単元に合わせて、このテキストから指定箇所を宿題として指示します。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、赤ペンを用いて答え合わせを行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

② 授業テキスト指定題演習 (1週間で1時間程度)

授業テキスト内の講師からの指定箇所を宿題とします。宿題専用のノートを用意し、まず一通り解き、答え合わせまで行いましょう。解けなかった問題・間違えてしまった問題は、授業ノートや解説を確認し「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。

③ 確認テスト・月例テストやり直し (1週間で30分程度)

毎週の授業冒頭で行う確認テストや月例テストに関して、解けなかった問題・間違えてしまった問題を授業ノートや解説で確認し、「間違いまとめノート」に解き直しを行ってください。各テストは60点以上を目標の目安とし、60点に満たない場合は追試もしくは解き直しのチェックを実施します。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 15分 | 諸伝達 5分 | 講義 15分 | 演習 10分 |
| 15分 | 5分 | 15分 | 10分 |
| 10分 | 10分 | 15分 | 10分 |
| 10分 | 10分 | 15分 | 10分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 授業内容 | 使用テキスト | 確認テスト |
|-----|---|----------------------------------|--------------------|------------------------------|
| 3月 | ① | 【数II演習】三角関数① | 「三角関数演習(3月)」テキスト | - |
| | ② | 【数II演習】三角関数② | 「三角関数演習(3月)」テキスト | 三角関数① |
| | ③ | 【数II演習】三角関数③ | 「三角関数演習(3月)」テキスト | 三角関数② |
| 春期 | ① | 数IA演習① | 春期テキスト | - |
| | ② | 数IA演習② | 春期テキスト | - |
| | ③ | 数IA演習③ | 春期テキスト | - |
| | ④ | 数IA演習④ | 春期テキスト | - |
| 4月 | ① | 【数B】§7-1 等差数列 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | - |
| | ② | 【数B】§7-2 等比数列 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-1 等差数列 |
| | ③ | 【数B】§7-3 和の記号Σと階差数列 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-2 等比数列 |
| 5月 | ① | 【数B】§7-3 和の記号Σと階差数列 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数B】§7-4 いろいろな数列 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-3 和の記号Σと階差数列 |
| | ③ | 【数B】§7-4 いろいろな数列 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-4 いろいろな数列 |
| 6月 | ① | 【数B】§7-5 漸化式と数列① [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数B】§7-5 漸化式と数列① [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-5 漸化式と数列① |
| | ③ | 【数B】§7-6 漸化式と数列② [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-5 漸化式と数列① |
| 7月 | ① | 【数B】§7-6 漸化式と数列② [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数B】§7-7 数学的帰納法 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-6 漸化式と数列② |
| | ③ | 【数B】§7-7 数学的帰納法 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §7-7 数学的帰納法 |
| 夏期A | ① | 【数II】§5-1 指数の拡張 / §5-2 指数関数 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | - |
| | ② | 【数II】§5-3 対数とその性質 / §5-4 対数関数 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §5-1 指数の拡張 / §5-2 指数関数 |
| | ③ | 【数II】§5-5 常用対数 / 発展問題演習 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §5-3 対数とその性質 / §5-4 対数関数 |
| 夏期B | ① | 【数B演習】数列 | 夏期テキスト | - |
| | ② | 【数B演習】漸化式① | 夏期テキスト | - |
| | ③ | 【数B演習】漸化式② | 夏期テキスト | - |
| 9月 | ① | 【数II】§6-1 微分係数と導関数 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | - |
| | ② | 【数II】§6-2 接線 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-1 微分係数と導関数 |
| | ③ | 【数II】§6-3 関数の増減と極値 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-2 接線 |
| 10月 | ① | 【数II】§6-4 最大値と最小値 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数II】§6-5 方程式・不等式への応用 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-4 最大値と最小値 |
| | ③ | 【数II】§6 まとめと発展演習 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-5 方程式・不等式への応用 |
| 11月 | ① | 【数II】§6-6 不定積分・定積分 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数II】§6-7 定積分で表された関数 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-6 不定積分・定積分 |
| | ③ | 【数II】§6-8 定積分と面積 [1] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-7 定積分で表された関数 |
| 12月 | ① | 【数II】§6-8 定積分と面積 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | 月例テスト |
| | ② | 【数II】§6-9 定積分の応用 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-8 定積分と面積 [2] |
| | ③ | 【数II】§6 まとめと発展演習 [2] | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §6-9 定積分の応用 |
| 冬期 | ① | 【数C】§8-1 ベクトルの演算と成分/§8-2 ベクトルの内積 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | - |
| | ② | 【数C】§8-3 位置ベクトル/§8-4 ベクトル方程式 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §8-1 ベクトルの演算と成分/§8-2 ベクトルの内積 |
| | ③ | 【数C】§8-5 平面ベクトルと平面図形 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §8-3 位置ベクトル/§8-4 ベクトル方程式 |
| | ④ | 【数C】§8-6 空間ベクトル/§8-7 空間ベクトルと空間図形 | 数学IIB+ベクトル(授業用) | §8-5 平面ベクトルと平面図形 |
| 1月 | ① | 【数II演習】図形と方程式① | 「数II演習(1月・2月)」テキスト | - |
| | ② | 【数II演習】図形と方程式② | 「数II演習(1月・2月)」テキスト | 図形と方程式① |
| | ③ | 【数II演習】三角関数① | 「数II演習(1月・2月)」テキスト | 図形と方程式② |
| 2月 | ① | 【数II演習】三角関数② | 「数II演習(1月・2月)」テキスト | 月例テスト |
| | ② | 【数II演習】指数関数・対数関数① | 「数II演習(1月・2月)」テキスト | 三角関数② |
| | ③ | 【数II演習】指数関数・対数関数② | 「数II演習(1月・2月)」テキスト | 指数関数・対数関数① |

上記カリキュラムのほかにも、確認テストが行われる場合があります。また、クラスごと、個人別の課題を設定する場合があります。

国語科カリキュラム

中学1年～高校3年

国語科指導方針

TW・T 授業の進め方

- 古典知識の早期体得
TWクラスは高1の1年間で現代文・古文・漢文の知識の修得と演習を行い、実際に東京大学をはじめとする最難関大学の問題に対処する知識と解答能力を身につけます。Tクラスは、高1の1年間で古文・漢文の知識基盤を構築します。高1のうちに古典の知識を身につけることで、高2からスムーズに他科目の勉強を進めることが可能になります。古文単語や漢文の頻出漢字などの知識は体得するのに時間を要しますので、高1の間に一通り学習し、高2・高3で繰り返し確認し定着をはかります。
- 添削指導（高2TW・高3）
国立大学を中心とする記述・論述型の問題を扱い、授業内で演習したものを添削指導いたします。制限時間内にどのように論理的思考をし、それをいかに答案に表現するかを体験してもらいつつ、答案作成の方法論を伝えます。現代文では、特に東京大学には頻出単語（所謂キーワード）がありますので、その単語をどのように答案に組み込むかを教授します。古典では逐語訳を旨としつつ、文意に沿った答案を書くための方法を指導します。
- 中学・高校入試で培った国語力の維持
中学・高校入試の際に必死に学んだ国語。四字熟語や慣用語、漢字の知識はこれからの財産となるものです。しかしながら、昨日常生活で漢字を手で書くことの頻度は減りました。中学・高校入試で培った国語力を風化させない、そのために国語の受講を勧めます。「なあなあ」にせずに「ちゃんと」国語の学習をやり続ける、これがコンセプトです。授業中の制限時間内に問題を解くという習慣を絶やさないと、ということが国語力維持に大きく貢献するはずですが。
- 視野を広げる
東京大学をはじめとした最難関大学の入試には抽象度の高い文章が出題されます。自らの興味関心のみならず焦点化した狭い視野では、入試に出題される文章を理解すること自体が難しく、それを簡潔明瞭に表現するという高いハードルを越えることは不可能です。高2の夏休みに『寝ながら学べる構造主義』という本を読むことを課題とし、掲載されている思想家についての理解を深めます。マルクス、フロイト、ニーチェなど、構造主義者というよりは20世紀の知性に大きな影響を及ぼした三人については概観し、ソシュール、フーコー、レヴィ=ストロース、ラカンについて学びます。わたしたちにとっては自明と思われることも、ある時代のある時点から採用されている考え方だ、ということに触れる経験は皆さんの成長にもつながります。

SK 授業の進め方

- 古文知識の早期体得
高1の1年間で古文・漢文の知識基盤を構築します。高1のうちに古典の知識を身につけることで、高2からスムーズに他科目の勉強を進めることが可能になります。古文単語や古文文法などの知識は体得するのに時間を要しますので、高1の間に一通り学習し、高2・3で繰り返し確認し定着をはかります。
- 中学・高校入試で培った国語力の維持
中学・高校入試の際に必死に学んだ国語。四字熟語や慣用語、漢字の知識はこれからの財産となるものです。しかしながら、昨日常生活で漢字を手で書くことの頻度は減りました。中学・高校入試で培った国語力を風化させない、そのために国語の受講を勧めます。「なあなあ」にせずに「ちゃんと」国語の学習をやり続ける、これがコンセプトです。授業中の制限時間内に問題を解くという習慣を絶やさないと、ということが国語力維持に大きく貢献するはずですが。
- 小論文
慶應義塾大学をはじめとして入試に小論文が必要な場合は高3で開講される小論文講座を受講してください。志望別に分けて添削指導を実施しますので、さまざまなニーズに対応可能です。

【6年間の流れ】

| | TW・T | SK |
|----|--|---|
| 中1 | 現代文は「論理トレーニング」を実施し、「何となく読む」状態からの脱却を目指します。論理を考え出し、論点をまとめ上げ、明快に記述する能力を養います。古文、漢文は有名作品の暗唱を行います。講習会で古文の文法をまとめて扱いますので、講習会を受講していただければ途中合流可能です。 | |
| 中2 | 現代文は共通テスト対策を実施します。資料を適切に読み取り、明快に記述する能力を養います。古文、漢文は有名作品の暗唱をひきつづき行います。講習会で古典の文法をまとめて扱いますので、講習会を受講していただければ途中合流可能です。中2終了時で古典文法の学習は一通り終了します。 | |
| 中3 | 現代文は構造主義の思想を学びます。東大を始めとする最難関大学受験において、有効に働く背景知識を身につけます。古文、漢文は有名作品の暗唱をひきつづき行います。中3の1年間で中1、2の2年間で学習した古典文法を終復習し、知識を完成させます。 | |
| 高1 | TW 東大をはじめとした最難関大学の合格水準に届く国語力をつけます。現代文の知識を習得することに主軸を置き、古典の知識を定期的に復習します。最難関大学の入試問題を演習できる素地を作ります。 | 古文・漢文を中心に扱います。古文・漢文のすべての文法事項を扱いますので、1年間頑張っていたら、古典の基礎的な知識基盤を構築することが可能です。 |
| | T 古文・漢文を扱います。古文・漢文のすべての文法事項を扱いますので、1年間頑張っていたら、古典の知識基盤を構築することが可能です。 | |
| 高2 | 東大をはじめとした最難関大学の合格水準に届く国語力をつけます。現代文の知識を習得することに主軸を置き、古典の知識を定期的に復習します。 | 古典の文法の復習をしながら、古典の読解と現代文の読解を行います。 |
| 高3 | 東大をはじめとした最難関大学の入試問題を演習します。添削指導によって、記述答案作成力を更に洗練し、総仕上げをします。受講することで、自習時間に国語の勉強をしなくてもよくなり効率的です。宿題は解き直しなどが中心で時間はさほどかかりません（30分～1時間程度）。 | 早大をはじめとする難関私立大の入試問題を演習します。 |

【ノート】

早稲アカ用のノートを1冊準備してください。

複数のノートを用意する必要はありませんが、宿題をやるときはどこからどこまでが宿題かわかるように記載してください。テキストへの解答の書き込みは授業内外を問わず禁止です。講師の板書のみならず、口頭で説明した内容も含め、学んだことを貪欲に書き込んでください。鉛筆やシャープペンシルに加え、赤・青・緑のペンをご用意ください。

【宿題の量】

学年・クラスにより多少は変動しますが、概ね以下のような分量の課題を出します。

- ①通常期：授業の復習（平均2時間）・各種テスト準備（平均1時間）／週×通常授業30回≒90時間程度
- ②長期休暇期間：春休み、GW、夏休み、冬休みで合計40時間程度
- ①+②で年間130時間程度の課題を出します。

また①②において「間違い箇所が多い場合」は必然的に「やり直しにかかる時間」が増えます。

【TWのみ】

高2・高3で添削が授業時に行われる場合は、添削が返却されてから書き直しを実施してください。「見て、読んで、おしまい」にすることなく、必ず手を動かすようにしてください。添削答案と模範解答を見比べ、自分の解答作成の手順、目の付け所（換言すべき語をそのまま用いていないか、語彙、文法など）を確認するとともに、自分の解答にない要素で抽出せねばならなかったものはどれかをチェックしてください。

【テスト(高1)】

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| TWクラス選抜 | 7月、12月に実施します。TW/Tクラスの受講にはこの試験に合格することが必要です。合格者は科目ごとに得点によって選出されますので、単科での受験も可能です。目標点の目安は60点です。またこの試験を当日3科目受験し、優秀な成績を収めた方は「特待生」の資格が得られます。高校受験者・新入生対象には3月、4月にも実施します。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 実施月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
| 必修テスト | 記述型全国模試を6月、9月、11月、2月の年4回受験します。単元学習を離れた実力テストで普段の学習がどの程度定着しているかを判断することができます。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 実施月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | |
| 月例テスト | 5月より指定月の初回授業冒頭20分間で月例テストを行います。前月学習した授業内容から出題されます。合格点は80点が目安です。 | | | | | | | | | | | | | |
| | 実施月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | |
| 確認テスト | 各クラスの「カリキュラム」に記載されている「確認テスト」の準備を行ってください。古文単語テスト・漢字テスト・現代文のキーワードテスト（高3のみ）を授業冒頭で実施します。テキストの指定範囲から出題されるものですので、合格点は100点です。1問も間違えないように抜かりなく準備をしてください。毎回のテストに関しては、得点をサクセスダイアリーに記載し、担当講師に報告、検印をもらってください。 長期休暇後にはそれまでの範囲の確認テストを実施しますので、毎回の出題範囲だけでなく、既習範囲の復習も定期的に行うようにしてください。 | | | | | | | | | | | | | |

高1国語TW

選抜

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分

対象

東大・国公立大医学部など最難関大学を目指す生徒。中3で「国語TW」を受講した方を対象とします。※受講にはTWクラス選抜試験への合格が必要です

講座の目的

古典分野

中3までに知識として得た文法を実際の文章の中で応用できる力を養い、最難関大学入試に対応できる学力を高1の2月までに身につけます。そのために、読解演習の中で必要な語彙・背景の知識を覚えます。さらに、文法事項や重要単語の知識をもとに、どこが採点基準になっているのか、という観点から問題をみることを習慣化します。最難関大学で安定的な国語の得点を獲得するためには、古典の得点力が大切です。まずは古典の基盤を固めることを優先して学習を進めます。

現代文分野

現代文は一朝一夕にできるようになるものではありません。問題文を「読む」ためには筆者の主張を、主観に左右されることなく把握する読解力が必要です。自分の主張を「カッコに入れて」、文章と距離を取りながら、読むということが求められます。つぎに記述問題で、採点者を納得させるに十分な答案を作成する表現力が必要です。そのためには「語彙」を身につけることが重要ですが、現代文は古典や外国語と異なり平素の言葉をベースに書かれているため、「語彙」はななくとも「なんとなくわかる」と軽視されがちです。「語彙」がわからないと「読む」ことはできず、まして「表現する」ことはできないということをまづみなさんに「自覚」してもらってから授業はスタートします。

【教材】※講習会は別テキストです。

■ 高2国語T/高1国語TW 現代文編

使用法

予習:不要です。

授業:授業内で読解演習を行い、解説を行います。カリキュラムに合わせて、段階的に学習が進むように配列した問題を制限時間内に演習します。いくら文章がきちんと読めても、時間内に書き終わらなければ得点にはなりません。時間内に読み、考えて、書く、ということを実際に体験しながら、方法論を身につけてもらいます。まずは、本文中から解答作成に必要な箇所を抽出できることを目指します。

復習:現代文の学習は復習がもっとも重要です。解説を聞いた後、自分に足りない要素はどこだったのかということを確認し、必ず書き直すようにしてください。解説を聞いて終わり、読んで終わり、はダメです。

■ 高2国語T/高1国語TW 入試古文演習

使用法

予習:不要です。

授業:授業内で読解演習を行い、解説を行います。授業内演習の際には、主語を書き入れる、主語がかわったところには印をつける、わからなくなったところに印をつける、などして、解説を聞く際、復習する際のことを考えて集中して行ってください。解説を漫然と聞くのではなく、自分がわからなかったところに自覚的になり、次回演習する際にどんな点に気を付けて読むとわかるのかということを確認するようにして下さい。

復習:現代語訳せよ、と問われた箇所は必ず品詞分解し、品詞ごとに逐一訳してください。可能であれば全文訳をすることをおすすめします。どこでわからなくなったのか、どこに着目すればよかったのか、解説をきいて得た気づきを言語化して残すことを習慣にすると、どういうところで自分がつまずくかがわかるようになります。単語帳に載っていないが、本文理解のキーとなる単語がある場合にはノートにまとめを作るようにしてください。

■ 高2国語T/高1国語TW 入試漢文演習

使用法

予習:不要です。

授業:授業内で読解演習を行い、解説を行います。授業内演習の際には、わからなくなったところに印をつける、などして、解説を聞く際、復習する際のことを考えて集中して行ってください。解説を漫然と聞くのではなく、自分がわからなかったところに自覚的になり、次回演習する際にどんな点に気を付けて読むとわかるのかということを確認するようにして下さい。

復習:問題になっていた箇所や句法が使われている箇所は白文で書き下し文にする、さらに現代語訳することをおすすめします。どこでわからなくなったのか、どこに着目すればよかったのか、解説をきいて得た気づきを言語化して残すことを習慣にすると、どういうところで自分がつまずくかがわかるようになります。本文理解のキーとなる漢字がある場合にはノートにまとめを作るようにしてください。

■ 新版完全征服 頻出漢字コア2800

頻出漢字を集めた教材です。月例テストの回以外はテストを実施します。各回の単元をまとめて勉強し、合間の時間に確認して定着させてください。

■ 新版完全征服 合格古文単語380

古文単語帳です。月例テストの回以外はテストを実施します。毎回のテストは試験範囲から25問出題されます。例文を暗記し、文脈に即した訳ができるように対策を講じてください。テスト実施後はダイアリーに得点を記載し、間違えた単語があった場合にはダイアリーに備忘録を記すとともに、テキスト自体にも忘れずに印をつけておくようにしてください。

【宿題】

漢字テスト・古文単語テストの実施回は準備が宿題です。(1日10分/毎日)

現代文の回:現代文の記述解答を再度書き直すことが宿題です。書き直したノートを講師がチェックします。(1週間に90分程度)

古典の回:授業内で実施した現代語訳を再度ノートに書いてください。現代語訳を書いたノートを講師がチェックします。(1週間に2時間程度)

月例テストに向けた復習:月例テストは現代文・古文・漢文から出題されます。上記で課された宿題を中心に復習をしてテストに臨んでください。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|---------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 10分 | 採点確認 5分 | 諸伝達 5分 | 導入 15分 |
| | | | 演習 25分 |
| 解説 30分 | | | |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 単元 | 内容 | 漢字テスト | 古文単語テスト |
|-----|---|------------------|------------------|-----------------------|---------------|
| 3月 | ① | 【古文】説話① | 今昔物語集・古本説話集 | - | - |
| | ② | 【古文】日記① | 土佐日記・蜻蛉日記 | 1章 | 1-50 |
| | ③ | 【漢文】説話① | 説苑など | 2章 書く1~12 | 51-100 |
| 春期 | ① | - | - | - | - |
| | ② | - | - | - | - |
| | ③ | - | - | - | - |
| | ④ | - | - | - | - |
| 4月 | ① | 【漢文】説話② | 蒙求など | - | 春期課題確認(1~380) |
| | ② | 【現代文】科学 | 入試問題演習 | 2章 書く13~25 | 101-150 |
| | ③ | 【古文】説話② | 宇治拾遺物語・十訓抄 | 2章 読む1~4 分かる1~4 | 151-200 |
| 5月 | ① | 【漢文】史伝① | 十八史略・史記 | 月例テスト | |
| | ② | 【現代文】科学 | 入試問題演習 | 3章 書く1~15 | 201-250 |
| | ③ | 【古文】日記② | 和泉式部日記・紫式部日記 | 3章 書く16~29 | 251-300 |
| 6月 | ① | 【漢文】史伝② | 史記・春秋左氏伝 | 月例テスト | |
| | ② | 【現代文】社会 | 入試問題演習 | 3章 読む1~6 分かる1~4 | 301-350 |
| | ③ | 【古文】随筆① | 枕草子(1)・方丈記(1) | 4章 | 351-380 |
| 7月 | ① | 【漢文】史伝③ | 春秋左氏伝・戦国策 | 月例テスト | |
| | ② | 【現代文】社会 | 入試問題演習 | 5章 同音・同訓漢字1~7 | 1-50 |
| | ③ | 【古文】随筆② | 枕草子(2)・徒然草(1) | 5章 似た形の漢字1~5 間違いやすい漢字 | 51-100 |
| 夏期 | ① | 【現代文】現代文読解 | 入試問題演習 | - | - |
| | ② | 【古文】古文文法の復習と読解演習 | 入試問題演習 | - | - |
| | ③ | 【漢文】漢文句法の復習と読解演習 | 入試問題演習 | - | - |
| 9月 | ① | 【漢文】文章① | 蘇軾・蘇東坡など | 夏期課題確認(1章~3章) | - |
| | ② | 【現代文】翻訳 | 入試問題演習 | 5章 四字熟語 | 101-150 |
| | ③ | 【古文】随筆③ | 方丈記(2)・徒然草(2)(3) | 1章 | 151-200 |
| 10月 | ① | 【漢文】文章② | 顧炎武・陶潜など | 月例テスト | |
| | ② | 【現代文】AI | 入試問題演習 | 2章 書く1~12 | 201-250 |
| | ③ | 【古文】物語① | 伊勢物語(1)・源氏物語(1) | 2章 書く13~25 | 251-300 |
| 11月 | ① | 【漢文】詩 | 孟浩然・李白など | 月例テスト | |
| | ② | 【現代文】身体 | 入試問題演習 | 2章 読む1~4 分かる1~4 | 301-350 |
| | ③ | 【古文】物語② | 大和物語(1)・源氏物語(2) | 3章 書く1~15 | 351-380 |
| 12月 | ① | 【漢文】思想① | 論語など | 月例テスト | |
| | ② | 【現代文】芸術 | 入試問題演習 | 3章 書く16~29 | 漢文語彙テスト |
| | ③ | 【古文】説話③ | 古今著聞集・堯心集・沙石集 | 3章 読む1~6 分かる1~4 | 漢文語彙テスト |
| 冬期 | ① | 【現代文】現代文読解 | 入試問題演習 | - | - |
| | ② | 【古文】古文文法の復習と読解演習 | 入試問題演習 | - | - |
| | ③ | 【漢文】漢文句法の復習と読解演習 | 入試問題演習 | - | - |
| | ④ | 【古典】古文漢文の応用演習 | 入試問題演習 | - | - |
| 1月 | ① | 【漢文】思想② | 孟子など | - | 冬期課題確認(1~380) |
| | ② | 【現代文】芸術 | 入試問題演習 | 4章 | 漢文語彙テスト |
| | ③ | 【古文】歌論・近世 | 俊賴髄脳・三冊子 | 5章 同音・同訓漢字1~7 | 漢文語彙テスト |
| 2月 | ① | 【漢文】思想③ | 韓非子など | 月例テスト | |
| | ② | 【現代文】虚構 | 入試問題演習 | 5章 似た形の漢字1~5 間違いやすい漢字 | 漢文語彙テスト |
| | ③ | 【古文】物語③ | 宇津保物語・落窪物語 | 5章 四字熟語 | 漢文語彙テスト |

上記カリキュラムの他にも、確認テストを行う場合があります。個人別の課題を設定する場合があります。受講者層と志望大学に応じて、扱う問題を変更する場合があります。

高1国語T

選抜

対象

東大・国公立大医学部など最難関大学を目指す生徒。中3で「国語TW」を受講していない方、高校受験された方を対象とします。※受講にはTクラス選抜試験への合格が必要です

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

講座の目的

春期講習会から始めて、1年間で古文・漢文の文法をマスターすることを目指すハイスピードなカリキュラムです。高1から本格的な受験勉強としての学習をはじめ、東大をはじめとする最難関国立大学合格のための礎を築きます。古文・漢文は重要単語の確認を含む、基本文法の習得を目指し、小テストなどを通じて定着を図ります。新しい知識を毎週相当量扱いますので、消化不良にならないよう、授業の復習を徹底して行ってください。

【教材】※講習会は別テキストです。

■ 高校新演習スタンダード古典I

古典のテキストです。古文文法の問題演習を中心に構成されていますが、読解問題も付属されています。

使用法

予習:不要です。

授業:文法事項の解説をした後に、基本問題・演習問題Aの演習を行います。答えはテキストに書き込まず、必ずノートに書きましょう。また講師が板書で解説したものはしっかりノートに書き写してください。

復習:授業で扱った文法問題の解き直しを課します。授業で扱った問題をもう一度全て解き直し、課された類題を解いてください。次の授業でノートの確認をします。

■ 高1国語T 漢文演習

漢文のテキストです。文法問題を中心に構成されていますが、読解問題も多く収録されているので、文法単元終了後は読解問題にも挑戦します。

使用法

予習:不要です。

授業:句法回→授業内で扱う句法の解説を行い、問題演習をします。読解回→授業内で読解演習を行い、解説を行います。

復習:句法回の授業では特に、新出事項がたくさんありますので、消化不良にならないように、テキストの問題を繰り返し解き、知識を定着させるように努めてください。毎週確実に復習をすることがなにより大切です。個人差はありますが、2~3時間は最低でも復習にかかると考えてください。復習がおざなりになると、カリキュラムが進むにつれて、雪だるま式にわからないことや未定着の部分が増えて途方に暮れることとなりますので注意してください。復習時には声に出して、漢文を読むのがおすすめです。テキストの問題を解くだけでなく、句法解説の欄にある例文を暗記してください。自分の中に漢文がたくさんストックされることで、漢文を読むことができるようになります。高校の授業で漢文句法を体系的に扱うところは多くありませんので、この授業で句法は完璧にするぞ、という意気込みで臨むようにしてください。

■ 新版完全征服 頻出入試漢字コア2800

頻出漢字を集めた教材です。各月3回目の授業でテストを実施します。各回の単元をまとめて勉強し、合間の時間に確認して定着させてください。

■ 新版完全征服 合格古文単語380

古文単語帳です。各月2回目の授業でテストを実施します。テストの合格点は100点です。毎回のテストは試験範囲から20問出題されます。例文を暗記し、文脈に即した訳ができるように対策を講じてください。ひとつの単語に意味がひとつだけ、ということは古文単語では稀ですので、すべての訳語を覚えてください。テスト実施後はダイアリーに得点を記載し、間違えた単語があった場合にはダイアリーに備忘録として反省欄に記すとともに、テキスト自体にも忘れずに印をつけておくようにしてください。

テストで100点をとるのはもちろんですが、定期的に見直しをして忘れていないかをチェックしてください。長期休み(夏・冬)の終わった初回授業ではそれまで実施したテスト範囲のまとめテストを実施します。古文単語を高1である程度わかるようにしておく、大きなアドバンテージになります。

【宿題】

古文単語テストの実施回は準備が宿題です。(1日10分/毎日)

古文文法の回:授業内で取り上げた範囲の基本問題と演習問題Aを再度ノートに解き直してください。やり直したノートを講師がチェックし、月例テストにも出題します。(1週間に2~3時間)

漢文句法の回:授業内で取り上げた範囲の例文をノートに書き出し、暗記してください。月例テストに出題します。(1週間に2~3時間)

読解の回:授業内で実施した現代語訳を再度ノートに書いてください。現代語訳を書いたノートを講師がチェックします。(1週間に2時間)

月例テストに向けた復習:月例テストは古文・漢文から出題されます。上記で課された宿題を中心に復習をしてテストに臨んでください。また、前月の古文単語テスト・漢字テストの範囲からも出題されます。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 5分 | 採点確認 5分 | 諸伝達 5分 | 導入 20分 |
| | | | 演習 20分 |
| | | | 解説 35分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 単元 | 内容 | 漢字テスト | 古文単語テスト |
|-----|---|----------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------|
| 春期 | ① | 【古文文法】動詞 | 動詞の活用形・活用の種類 | - | - |
| | ② | 【古文文法】形容詞・形容動詞 | 用言のまとめ | - | - |
| | ③ | 【漢文句法】訓読の基本 | 漢文訓読入門 | - | - |
| | ④ | 【漢文句法】読解 | 故事成語 | - | - |
| 4月 | ① | 【古文文法】用言 | 第2講～第4講(用言) | - | - |
| | ② | 【古文文法】助動詞 | 第5講(助動詞「ず」～「けり」) | - | 1-40 |
| | ③ | 【漢文句法】訓読の基本 | 第1章 | 1章 | - |
| 5月 | ① | 【古文文法】助動詞 | 第6講(助動詞「つ」～「り」) | 月例テスト | |
| | ② | 【古文文法】助動詞 | 第7講(助動詞「る」～「しむ」) | - | 41-80 |
| | ③ | 【漢文句法】否定・禁止 | 第2章 | 2章 書く1～12 | - |
| 6月 | ① | 【古文文法】助動詞 | 第8講(助動詞「む」～「けむ」) | 月例テスト | |
| | ② | 【古文文法】助動詞 | 第9講(助動詞「べし」「まじ」「らし」) | - | 81-120 |
| | ③ | 【漢文句法】疑問・反語 | 第3章・第4章 | 2章 書く13～25 | - |
| 7月 | ① | 【古文文法】助動詞 | 第10講(助動詞「なり」「めり」「たり」) | 月例テスト | |
| | ② | 【古文文法】助動詞 | 第11講(助動詞「まし」「まほし」「たし」「ごとし」) | - | 121-160 |
| | ③ | 【漢文句法】受身・使役 | 第5章・第6章 | 2章 読む1～4 分かる1～4 | - |
| 夏期 | ① | 【古文文法】文法まとめ | 1学期の復習 | - | - |
| | ② | 【漢文句法】句法まとめ | 1学期の復習 | - | - |
| | ③ | 【現代文】評論読解 | 論述的文章 | - | - |
| 9月 | ① | 【古文文法】助詞 | 第12講(格助詞・接続助詞) | - | 夏期課題確認(1-160) |
| | ② | 【古文文法】助詞 | 第13講(副助詞・終助詞) | - | 161-200 |
| | ③ | 【漢文句法】比較・選択・仮定 | 第7章・第8章 | 3章 書く1～15 | - |
| 10月 | ① | 【古文文法】識別 | 第14講(紛らわしい語の識別) | 月例テスト | |
| | ② | 【古文文法】識別 | 第15講(紛らわしい語の識別) | - | 201-240 |
| | ③ | 【漢文句法】抑揚・限定 | 第9章・第10章 | 3章 書く16～29 | - |
| 11月 | ① | 【古文文法】敬語 | 第16講(敬語) | 月例テスト | |
| | ② | 【古文文法】敬語 | 第17講(敬語) | - | 241-280 |
| | ③ | 【漢文句法】詠嘆・願望 | 第11章・第12章 | 3章 読む1～6 分かる1～4 | - |
| 12月 | ① | 【古文文法】和歌の修辞 | 第18講(和歌の修辞) | 月例テスト | |
| | ② | 【漢文読解】故事成語 | 塞翁馬・苛政猛於虎など | - | 281-320 |
| | ③ | 【漢文読解】詩 | 李白・杜甫 | 4章 | - |
| 冬期 | ① | 【古典文法】文法まとめ | 2学期の復習 | - | - |
| | ② | 【古文読解】日記・随筆 | 更級日記・徒然草 | - | - |
| | ③ | 【漢文読解】史話・思想 | 玉堂叢語・童子問 | - | - |
| | ④ | 【現代文】現代文の読解 | 論述的文章 | - | - |
| 1月 | ① | 【古文読解】識別 | 第14講・第15講演習問題B | - | 冬期課題確認(161-320) |
| | ② | 【古文読解】敬語 | 第16講・第17講演習問題B | - | 321-360 |
| | ③ | 【漢文読解】史話・史伝① | 世説新語・帰去来辞 | 5章 同音・同訓漢字1～7 | - |
| 2月 | ① | 【古文読解】和歌の修辞 | 第18講演習問題B | 月例テスト | |
| | ② | 【漢文読解】史話・史伝② | 鴻門之会・漁夫辞 | - | 361-380 |
| | ③ | 【漢文読解】思想 | 論語など | 5章 似た形の漢字1～5 間違いやすい漢字 | - |

※上記カリキュラムの他にも、確認テストを行う場合があります。 ※個人別の課題を設定する場合があります。 ※受講者層と志望大学に応じて、扱う問題を変更する場合があります。

高1国語SK

対象

早稲田大・上智大・国公立大学をはじめとする難関大学を目指す生徒。

通常授業(1回)

90分

講習会(1回)

180分
春期講習会のみ
90分

講座の目的

年間を通して古典文法をメインで扱います。古文は国語の科目のひとつではありますが、専門的な知識が要求される非常に難度の高いものです。この講座では1学期の終わりまでに助動詞、2学期の終わりまでに識別・敬語までの単元を学習し、模試や学校の勉強で有利になるようにカリキュラムを設定しています。高校1年生の間に古文文法の9割を定着させることが目標です。

また現代文は、難解な文章の読解をするための力を養成します。背景知識などの読解における頻出事項の定着も図ります。

【教材】 ※講習会は別テキストです。

■ 高校新演習スタンダード古典I

古典のテキストです。古文文法の問題演習を中心に構成されていますが、読解問題も付属されています。

使用法

予習:不要です。

授業:文法事項の解説をした後に、基本問題・演習問題Aの演習を行います。答案はテキストに書き込まず、必ずノートに書きましょう。また講師が板書で解説したものはしっかりノートに書き写してください。

復習:授業で扱った文法問題の解き直しを課します。授業で扱った問題をもう一度全て解き直し、課された類題を解いてください。次回の授業でノートの確認をします。

■ 高校新演習フォーカス漢文

漢文句法の教材です。漢文句法の問題演習を中心に構成されていますが、読解問題も付属されています。

使用法

予習:不要です。

授業:漢文句法の解説をした後に、例題・演習問題の演習を行います。答案はテキストに書き込まず、必ずノートに書きましょう。また講師が板書で解説したものはしっかりノートに書き写してください。

復習:授業で扱った問題の解き直しを課します。授業で扱った問題をもう一度すべて解き直し、課された類題を解いてください。次回の授業でノートの確認をします。

■ 高校新演習フォーカス現代文1

現代文のテキストです。高校内容で頻出の評論をメインとして構成されています。

使用法

予習:不要です。

授業:授業内で演習、解説を行います。最初に導入を行い、演習後に解説をしていきます。背景知識などの解説も行います。

復習:授業で扱った問題を解き直してください。また担当講師によっては類題演習を課す場合があります。次回の授業でノートの確認をします。

■ 新版完全征服 合格古文単語380

古文単語帳です。月例テストの回以外はテストを実施します。テストの合格点は100点です。毎回のテストは試験範囲から20問出題されます。例文を暗記し、文脈に即した訳ができるように対策を講じてください。ひとつの単語に意味がひとつだけ、ということは古文単語では稀ですので、すべての訳語を覚えてください。テスト実施後はダイアリーに得点を記載し、間違えた単語があった場合にはダイアリーに備忘録として反省欄に記すとともに、テキスト自体にも忘れずに印をつけておくようにしてください。

毎回のテストで100点をとるのはもちろんですが、定期的に見直しをして忘れていないかをチェックしてください。長期休み(夏・冬)の終わった初回授業ではそれまで実施したテスト範囲のまとめテストを実施します。古文単語を高1である程度わかるようにしておく、大きなアドバンテージになります。

【宿題】

全ての回で古文単語テストの準備が宿題です。(1日10分/毎日)

古文文法の回:授業内で取り上げた範囲の基本問題と演習問題Aを再度ノートに解き直してください。やり直したノートを講師がチェックし、月例テストにも出題します。(1週間に90分程度)

漢文句法の回:授業内で取り上げた範囲の例題と演習問題を再度ノートに解き直してください。やり直したノートを講師がチェックし、月例テストにも出題します。(1週間に90分程度)

現代文の回:授業で扱った問題の解き直しと授業内で取り扱っていない問題の演習をノートに行ってください。解答解説を熟読し、記述問題以外自己採点し、次回授業時に講師に提出してください。(1週間に90分程度)

月例テストに向けた復習:月例テストは古文・漢文から出題されます。上記で課された宿題を中心に復習をしてテストに臨んでください。また、前月の古文単語テストの範囲からも出題されます。

【授業進行例(通常授業)】

| | | | |
|--------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 0 | 30 | 60 | 90 |
| 確認テスト 5分 | 採点確認 5分 | 諸伝達 5分 | 導入 20分 |
| | | 演習 20分 | 解説 35分 |

・クラスの数や理解度などによって多少変更されることがあります。ご了承ください。 ・月例テストの回はテストが20分です。

【カリキュラム】

| 月 | 回 | 単元 | 内容 | 古文単語テスト |
|-----|---|-------------------|-----------------------------|-----------------|
| 春期 | ① | 【古文】古文文法入門① | 歴史的仮名遣い・活用形 | - |
| | ② | 【古文】古文文法入門② | 覚えるべき動詞の活用 | - |
| | ③ | 【古文】古文文法入門③ | 見分けるべき動詞の活用 | - |
| | ④ | 【古文】古文文法入門④ | 形容詞・形容動詞・係り結び | - |
| 4月 | ① | 【古文文法】用言 | 第2講～第4講(用言) | - |
| | ② | 【古文文法】助動詞 | 第5講(助動詞「ず」～「けり」) | 1～20 |
| | ③ | 【漢文句法】はじめに・再読文字 | 基礎講座・第1講 | 21～40 |
| 5月 | ① | 【古文文法】助動詞 | 第6講(助動詞「つ」～「り」) | 月例テスト |
| | ② | 【古文文法】助動詞 | 第7講(助動詞「る」～「しむ」) | 41～60 |
| | ③ | 【漢文句法】否定・禁止 | 第2講・第3講 | 61～80 |
| 6月 | ① | 【古文文法】助動詞 | 第8講(助動詞「む」～「けむ」) | 月例テスト |
| | ② | 【古文文法】助動詞 | 第9講(助動詞「べし」「まじ」「らし」) | 81～100 |
| | ③ | 【漢文句法】疑問・反語(1) | 第4講 | 101～120 |
| 7月 | ① | 【古文文法】助動詞 | 第10講(助動詞「なり」「めり」「たり」) | 月例テスト |
| | ② | 【古文文法】助動詞 | 第11講(助動詞「まし」「まほし」「たし」「ごとし」) | 121～140 |
| | ③ | 【漢文句法】疑問・反語(2) | 第5講 | 141～160 |
| 夏期 | ① | 【古文文法】文法まとめ | 1学期の復習 | - |
| | ② | 【漢文句法】句法まとめ | 1学期の復習 | - |
| | ③ | 【現代文】評論読解 | 分野別演習 | - |
| 9月 | ① | 【古文文法】助詞 | 第12講(格助詞・接続助詞) | 夏期課題確認(1～160) |
| | ② | 【古文文法】助詞 | 第13講(副助詞・終助詞) | 161～180 |
| | ③ | 【漢文句法】使役・受身・比較と選択 | 第6講 | 181～200 |
| 10月 | ① | 【古文文法】識別 | 第14講(紛らわしい語の識別) | 月例テスト |
| | ② | 【古文文法】識別 | 第15講(紛らわしい語の識別) | 201～220 |
| | ③ | 【漢文句法】限定・抑揚・累加 | 第7講 | 221～240 |
| 11月 | ① | 【古文文法】敬語 | 第16講(敬語) | 月例テスト |
| | ② | 【古文文法】敬語 | 第17講(敬語) | 241～260 |
| | ③ | 【漢文句法】仮定・比況・願望・詠嘆 | 第8講 | 261～280 |
| 12月 | ① | 【古文文法】和歌の修辞 | 第18講(和歌の修辞) | 月例テスト |
| | ② | 【現代文】指示語・接続語 | 第1講 | 281～300 |
| | ③ | 【漢文読解】漢詩 | 第20講 | 301～320 |
| 冬期 | ① | 【古文】文法まとめ① | 2学期の復習 | - |
| | ② | 【古文】文法まとめ② | 2学期の復習 | - |
| | ③ | 【漢文】句法まとめ | 2学期の復習 | - |
| | ④ | 【現代文】評論 | 分野別演習 | - |
| 1月 | ① | 【古文読解】識別 | 第14講・第15講演習問題B | 冬期課題確認(161～320) |
| | ② | 【現代文】表現上の工夫 | 第2講 | 321～340 |
| | ③ | 【現代文】対比 | 第3講 | 341～360 |
| 2月 | ① | 【古文読解】敬語 | 第16講・第17講演習問題B | 月例テスト |
| | ② | 【現代文】段落相互の関係 | 第4講 | 361～380 |
| | ③ | 【現代文】論と例・要旨 | 第5講・第6講 | 1～380 |

※上記カリキュラムの他にも、確認テストを行う場合があります。 ※個人別の課題を設定する場合があります。 ※受講者層と志望大学に応じて、扱う問題を変更する場合があります。

【受講にあたってのご案内】

クラス分け

選抜クラス(TWクラス・Tクラス)に関しては、中1～高1生は「TW/Tクラス選抜試験」、高2生は「東大水準模試」および理科TWクラス選抜試験、高3生は「東大必勝模試」および理社TWクラス選抜試験の結果により受講資格が与えられます。これらの試験は7月と12月に実施され、それぞれ後期(9月～翌年2月)と前期(翌年3月～8月)のクラスを確定します(※)。

SKクラス(1組・2組)・Rクラス(高3のみ)に関しては、必修テストの結果に応じてクラス分けを行います。2月・6月のテストで後期(9月～翌年2月)、9月・11月の必修テストで前期(翌年3月～8月)のクラスを確定します。

※高3「東大必勝模試」は6月・9月の実施です。

月例テスト

解答用紙を実施前月の月末発送物で送付します。対面参加生は送付されたものを月例テスト実施日に持参してください。問題用紙につきましては、対面参加生は授業の際に直接配布、Zoom参加生は早稲田アカデミーOnline内「学習コンテンツ」に公開された問題を見てテストを行います。

いずれの学年も、Zoom参加生は解答用紙を「早稲田アカデミーEAST」アプリを使用して、テスト当日の22時までに提出してください。また、実施後には早稲田アカデミーOnline内「学習コンテンツ」に解答を公開しますので、復習にご活用ください。

採点後の答えは、対面参加生には授業で直接返却し、Zoom参加生は「早稲田アカデミーEAST」での返却および月末(※)の発送物にて送付します。

※「早稲田アカデミーEAST」アプリで提出された答案に関しては、翌月末の発送物での送付となるケースがあります。ご了承ください。

確認テスト

対面参加生は授業の際に直接配布、Zoom参加生は画面共有でテストを行います。

翌月上旬には早稲田アカデミーOnline内「学習コンテンツ」に問題・解答を公開しますので、復習にご活用ください。

早稲田アカデミーEAST(アプリ)

月例テストの解答用紙や英語TW Boosterクラスの課題の提出に使用するアプリです。「早稲田アカデミーEAST」のアプリをダウンロードし、ホームページに掲載されている「スタートアップガイド」に従って解答用紙などの提出を行ってください。

早稲田アカデミーOnline(アプリ)

早稲田アカデミーが提供するさまざまなICTサービスを利用するための、オリジナルポータルサービスです。授業スケジュールの確認、遅刻や欠席の連絡、「双方向Web授業」や「学習コンテンツ」へのアクセスができるほか、各種お申し込みや請求支払い状況の照会などの機能を搭載しています。「お知らせ」には、時間割や保護者会のご案内など、重要なお知らせを配信します。

アプリのインストールおよびアカウント作成についての詳細は、ご入塾の際に配布している案内をご確認ください。

振替制度

同じクラス名の授業を他校舎にて振替出席することが可能です。事前に所属校舎までお申し出ください。校舎によって授業実施曜日が異なりますので、早稲田アカデミーOnlineに掲載されている年間カレンダーにて授業スケジュールをご確認いただき、授業回数が異なってしまわないようご注意ください。

教材の購入方法

テキスト使用予定約1か月前から早稲田アカデミーOnlineにてテキストが購入できるようになります。

購入が必要な時期(※)に「教材のご案内」を配布いたします。購入に必要な各教材の「教材コード」などが記載されておりますので、そちらを参照してご購入いただけます。

また、受講していない講座や、他学年の物などを含め時期が異なる教材の購入も可能です。購入をお考えの教材内容に関しては校舎までお問い合わせください。

※テキストの切り替わる時期に関しては各科目のカリキュラムのページをご確認ください。

サクセスタイムズ(毎月のお知らせ)

毎月の営業日時・休講日・模試・イベント等のご案内は、早稲田アカデミーOnlineに「サクセスタイムズ」を掲載させていただきますのでご確認ください。

ご不明点などございましたら所属校舎までお問い合わせください。

配布物ファイル

お知らせ等の配布物は授業時にクリアファイルに入れて配付いたします。授業中に配付しますので、中身を受け取り後、ファイルを授業担当講師へ返却してください。

授業がZoomでの参加のみ等の理由で直接お渡しできていない方に関しては、当月末の発送物にて送付します。

事務受付時間

通常営業日 平日・土曜 13:00～19:30

講習会期間 9:00～19:00

※日曜日の営業日時や受付時間変更などに関しては、毎月早稲田アカデミーOnlineに掲載される「サクセスタイムズ」をご参照ください。

自習室の利用

通常営業日 平日・土曜 13:00～21:30

講習会期間 8:30～20:00

※利用時間や利用可能日を変更させていただく場合がございます。変更がある場合は、早稲田アカデミーOnlineにてご案内いたします。

SYLLABUS 2026

[高校1年生コース]

 **早稲田アカデミー 大学受験部**